

水-1



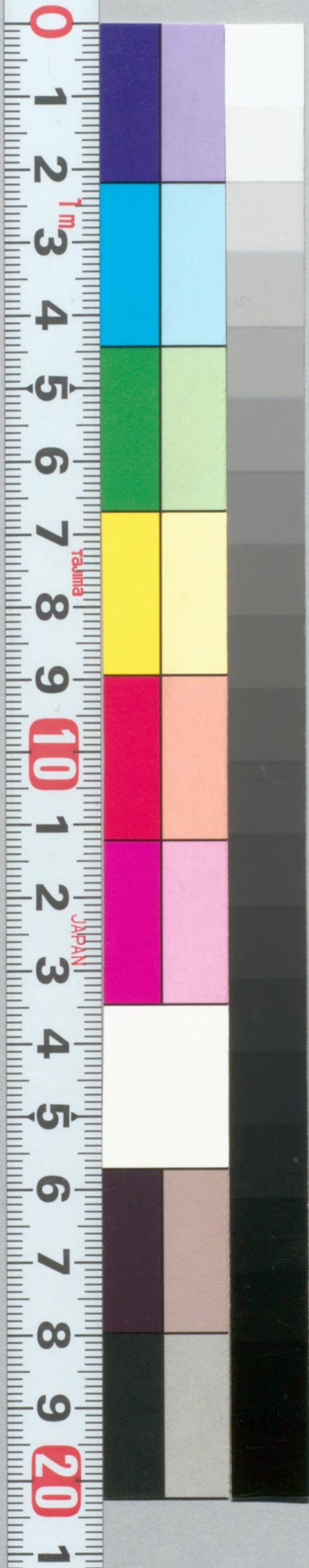
1200701536807

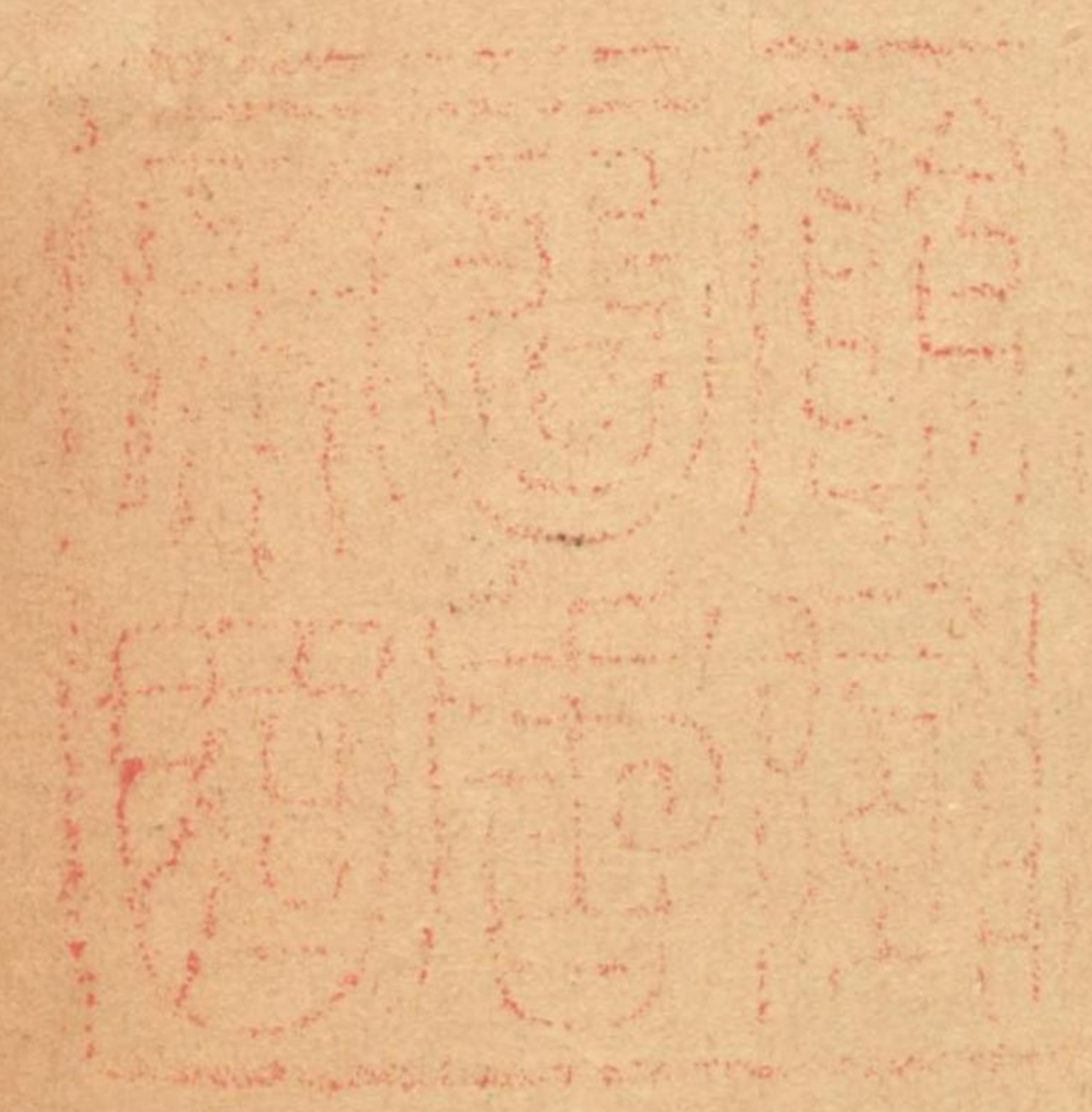
明治三十四年八月刊行

日本水産調査報告第一

北洋及東洋水産

水産



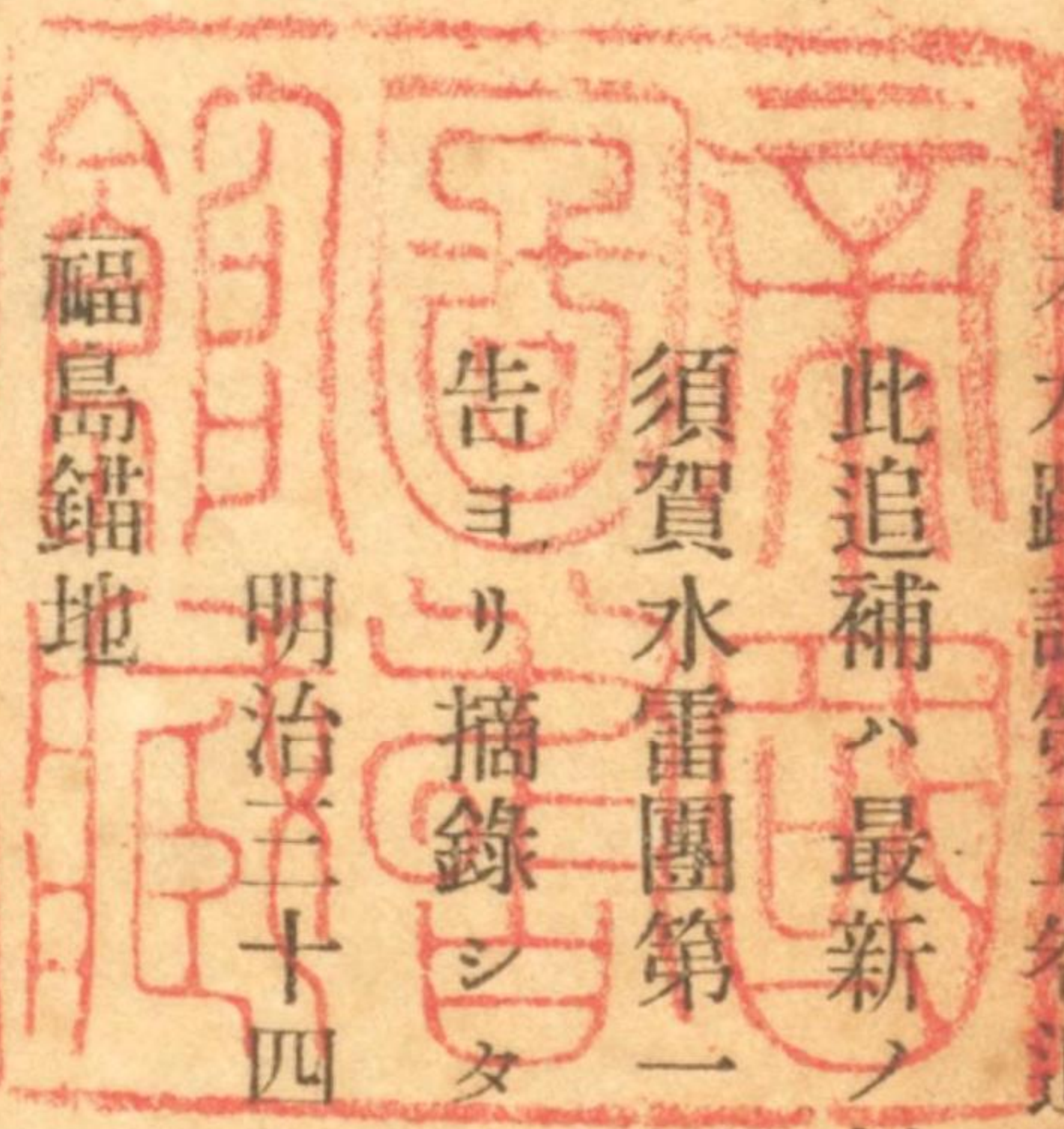


日本水路誌第五卷追補第一

此追補ハ最新ノ材料即チ廿六年乃至卅四年ニ至ル軍艦武藏海門天龍横須賀水雷團第一艇隊及荒畑鈴木兩水路監等ノ諸實驗記事其他内外諸報告ヨリ摘録シタルモノナリ

明治三十四年七月

水路部



福島錨地

十四頁九、十行

福島村云々ヲ福島村ト白神岬トノ約中間ニ吉岡錨地アリ南ヨリ西ヲ經テ北ニ至ル風ヲ防キ二三ノ小船ヲ錨泊セシムルニ足ル而シテ福山ニ泊スル能ハサル時ノ避泊地ニ適スヘシト改ム

函館港

辨天埼

七頁八行
函館半島ノ北端ニシテ近年辨天臺場跡ヨリ北方ヘ約二鏈半餘埋築地ヲ構成ス○此北端ヨリ北方約七鏈半ノ間淺嘴斗出ス其外端ノ水深四尋ナリ



○此北緯... 國前中島ノ北緯ニ... 緯天賦

函館港

ハセヨ湖ノ巖所... 北ニ至ル風ヲ... 函館港

函館港

開港二十四年十月

本 報 稿

日本海... 函館港... 開港二十四年十月

該埋築地ノ西面ハ漸次浚渫スト云フ

浮標

八頁六行

前記淺嘴ノ北東界附近即チ燈船ノ南ノ東ニ東約五鏈ノ處ニアリ此浮標ハ鐵造圓錐形ニシテ紅色ニ塗リ三角形ヲ冠ス○喫水十八呎未滿ノ船ハ此浮標ト燈船ノ間ヲ通過スルヲ得

目標

市街ノ北東端ニ煉瓦造ノ高烟突アリ附近低地ナルヲ以テ晴夜ニ見ルヲ得其位置燈船ヨリ南東^三/_八南一^三/_四湮九^八/_{一〇}鏈ニ當ル

該烟突ノ西方ニ又鐵造ノ烟突アリ中央ヨリ上部ハ條線二條ヲ白塗ス其位置燈船ヨリ南東^三/_四南一^一/_四湮ニ當ル

報時信號

測候所ニ於テ測候旗竿ヲ利用シ毎日該信號ヲ施行ス

中央標準時ノ正午(即チ地方平時ノ零時二十二分五十四秒三三ノ五分前ニ旗

二十頁

魚類ハ少量セバ高價セリ狸菜類ハ少量ニシテ半肉類肉ハ高價セリ
其餘品

二十頁

六里モ火野ニ焼五ノ
珠白交閃モ白也ニ焼
惠山岫巖臺
ニ於テ計製ス

二十頁

六里モ火野ニ焼五ノ
珠白交閃モ白也ニ焼

十六頁

惠山岫巖臺
ニ於テ計製ス

却ハ東京天文臺ヨリ雷射ス昔々雷射ニ始朝マレ却ハ日差モ五ニハ
唯々レ却後モ平射雷射三十五分イヌ
レ雷射朝マレイチハ三十分間モ懸マ再コ前ク成レ計製ス此也聯合ニハ
モ辛ク中央マレニ分前ニ土藏マレ土マ五千ニ蓄不スレイヌ昔々雷射

石炭

二十二頁

石炭ハ夕張幌内、空知、幾春別ノ四種ニシテ夕張炭最モ多シ價格ハ一噸約八
圓乃至六圓五十錢ニシテ室蘭、ワニシ、エトツケノ三貯炭所ニ蓄積ス採炭所
ヨリ鐵道ニテ輸送シ來ル量ハ一日約千二百噸ナリト云フ
石炭ヲ艦船ニ補給スルニ用ユル舩舟ハ約三十隻ニシテ平均一隻ノ載量五十
噸ナリ之ヲ三隻ノ汽艇ニテ交互ニ引キ來ル好天氣ニ於テハ晝間十三時間ニ
二千二百噸餘ヲ補給シ得ヘシ

淡水

船舶ニ供給スヘキ淡水ハ海岸スタントシヨト稱スル所ニ汲水所アリテ水管
ニテ海濱ニ導ケリ而シテ一日約五十噸ヲ得ヘシ○給水請負業者アリ五十噸
積三十噸積ノ水船各一隻ヲ備ヘ汽艇ニテ引キ唧筒ニテ直チニ船舶ニ積入ル
一噸ノ價約五十錢ナリ但水量ハ概シテ豊富ナラス

二十五頁

港内岸邊ノ淺處ハ冬季厚約三吋許結氷スルコトアリト雖船舶ノ航泊ニ妨害

二十行 浦内山嶽ノ對面ハ冬季氷凍三州若蘇水ノエイマレイ難浦ノ浦内ニ故害

一ノ浦ノ對面五十餘ヤリ田水量ハ薄シテ豐富セマス

蘇三十脚蘇ノ水漲各一雙モ前ハ片塊ニテ田チ脚高ニテ直ヤニ漲蘇ニ蘇入

ニテ蘇蘇ニ蘇ヤリ面ニテ一日蘇五十脚モ蘇ヘシ○蘇水請負業者マレ五十脚

蘇蘇ニ蘇蘇スヘキ蘇水ハ蘇蘇ススニイニイ蘇スス水漲ニ蘇水漲マレテ木管

蘇水

二十行 二百脚箱モ蘇蘇ニ蘇ヘシ

脚チリノモ三隻ノ片塊ニテ交互ニ田チ來ル天霖ニ然モハ晝間十二脚間ニ

不嵐モ蘇蘇ニ蘇蘇スルニ田エハ蘇蘇ハ蘇三十隻ニシテ平地一雙ノ蘇量五十

トモ蘇蘇ニテ蘇蘇ニ來ル量ハ一日蘇十二百脚チリイニ

圓尺至六圓正十錢ニシテ空蘭マニニイニイマレノ二領嵐漲ニ蘇蘇ス蘇蘇

二十行 不嵐ハ不嵐内空吹幾春用ノ四蘇ニシテ不嵐最チ急ニ蘇蘇ハ一脚蘇入

不嵐

ナシ

二十六頁 九行 ナレモチ、ニシテ底質礫沙錨搔キ不良ナリト雖、ニ改ム

二十六頁 浦川チ浦河ト改ム

二十六頁 浦河ハ人口二千餘漁業ヲ主トシ商之ニ次ク支廳及電信局アリ○物産ノ主品

ハ肥料昆布トス

淡水ハ其質不良ニシテ量少ナシ野菜、魚類、雞、雞卵ハ得ヘキモ高價ナリ

二十七頁 浦河燈臺ノ南方約半鏈ノ處ニ暴風標アリ

函館幌泉間ノ定期汽船ハ天候不良ニ非ラサレハ隔日寄港ス

様似灣

浦河ノ東方約七湮半ニアル一小灣ニシテ南東ニ開放ス而シテ南方ニ斗出ス

ル半島ヨリ東方ニ向ヒ約一鏈間岩陂伸出スルヲ以テ稍南ヨリ來ル波浪ヲ防

クニ足ル西風ニハ固ヨリ好避泊地ナルモ南風強キトキハ背面ノ西灣ニ避ケ

サルヲ得ス○該半島ハ高百餘呎ノ低頸地ニ依リ陸地ト連ナルヲ以テ遠望島

瀬川前河間ハ昔其瀬川ニ一輪式主一輪半船相出スルヲ以テ盛衰ニ對
響ス

酢漬品ヲ獲スヘシ共木ハ更賣セシイテ量多クナス
掛品

函館ニ毎日汽船ノ交通アリ冬候ハ一々八二回ニ遊ナス
撫瀨善ト主イヌ

八十八頁
二十八頁

別泉ハ人口千餘餘業ト主イヌ對馬海軍軍部同 海軍善ト主イヌ
對馬ハ人口千餘餘業ト主イヌ對馬海軍軍部同 海軍善ト主イヌ

別泉の里

新木ハ不更ニシテ少量ナリ

對馬ノ人口ハ正百餘餘業ト主イヌ公署ハ對馬海軍軍部同 海軍善ト主イヌ

對馬島ハ水彩ニ暮氏至四暮ニシテ對馬別泉ニ對シテイ煙善ナリ

前橋ノ岩畑ハ高嶺ニ對シテスニシテ其間別泉ナリ

ハ成

近ス可カラス

二十八頁
十二行

六里ヲ九湮ニ改正ス

襟裳岬霧笛

三十頁
六行

二十秒以下全文ヲ一分時毎ニ七秒間之ヲ吹鳴スト改ム

三十二頁
六行ノ次

襟裳岬ノ偏北方約四十九湮大津川口ニ暴風標アリ

釧路

三十二頁
十二、三
行改正

釧路ハ一般開港場ニシテ現今室蘭根室ノ間ニ於ケル最盛ノ地ナリ人口ハ其

町村ヲ合シ七千三百餘町民ハ商業ニ村民ハ漁業ニ從事ス○大抵諸品ヲ辨

ス

三十三頁
二行ノ次

函館ト毎日定期汽船ノ交通アリ

氣候及天候

左ニ掲クル表ハ釧路測候所ニ於テ最近六年間施シタル檢測ノ平均ニ係ル

二卷八水
三十三頁

式ニ附々々表ハ險嶺斷絶視ニ於テ最或六半間斷々々ハ斷絶ノ平地ニ附々

六

二卷五
三十三頁

田林ヲ合シトテ三百餘田ノハ商業ニ林ノハ農業ニ資事ノ○大群商品ヲ繼
險嶺ハ一畑開墾ニシテ與今室蘭附室ノ間ニ於テハ最或六半間斷々々ハ斷絶ノ平地ニ附々

險嶺

六卷八水
三十三頁

蕪莫脚ノ斷北式條四十式野大群川口ニ暴風野々々

六卷
三十三頁

二十條以不全文キ一谷畑毎ニ十條間之ヲ知脚ノ十條々

蕪莫脚霧苗

二卷八水
三十三頁

六里ヲ火野ニ野五々

後々何々々々

月次	晴雨計 平均	寒暖計 平均(華氏)	雨雪ノ 日數	流行風 方向	風ノ速度 平均
一月	29.90	15.3	10.5	N.,N.W.	3
二月	29.93	18.7	10.2	N.,N.W.	3
三月	30.00	25.0	12.5	N.,S.W.	3
四月	29.98	38.3	12.7	S.W.,N.	3
五月	29.87	46.0	13.0	S.W.,N.E.	3
六月	29.84	54.7	15.7	S.W.,N.E.	3
七月	29.81	61.9	16.4	S.W.,N.E.	3
八月	29.85	65.7	18.9	S.,S.W.	3
九月	29.96	58.3	17.0	S.,N.	3
十月	30.00	45.5	12.4	N.,S.W.	3
十一月	29.96	34.3	11.2	N.,S.W.	3
十二月	29.87	22.5	11.2	N.,N.W.	3

月	日	風向	風速	雨日	寒期	雨期
一月	一	N.W.	10.2	10.2	12.3	20.00
一月	二	N.W.	10.2	10.2	18.7	20.08
一月	三	N.W.	12.2	12.2	22.0	30.00
一月	四	S.W.	12.7	12.7	38.3	20.08
一月	五	S.W.	13.0	13.0	46.0	20.87
一月	六	S.W.	12.7	12.7	24.7	20.84
一月	七	S.W.	16.4	16.4	61.9	20.81
一月	八	S.W.	18.9	18.9	62.7	20.82
一月	九	S.W.	17.0	17.0	28.3	20.08
一月	十	N.S.W.	12.4	12.4	42.2	30.00
一月	十一	N.S.W.	11.2	11.2	34.3	20.08
一月	十二	N.W.	11.2	11.2	22.2	20.87

三十四頁

蔬菜ノ下文ヲ、等其他總テ日用品ヲ得ヘシ但高價ナリ又井水ハ良質多量ノモノアリ、ト改ム

厚岸灣

三十六頁

灣月町ニ暴風標アリ

濱中灣

四十一頁

灣ノ南側霧多布村ニ暴風標アリ

花咲錨地

四十九頁

本地ト根室ハ陸路一里半ニシテ容易ニ馬車ヲ通ス冬季根室ノ結氷中ハ其海港トシテ代用スルヲ得此ニ郵船會社倉庫アリ

花咲町ニ暴風標アリ

根室港

七十三頁

小船ハ辨天島ノ東側ニ近ク泊スルヲ最良トス

七十八頁

海底電線

十行六頁 藏知重録

十行三頁 小磯ハ巒天島ノ東側ニ設ケ居スルモ最良イヌ

財室掛

芥知田ニ暴風懸マレ

芥イニマケ升田スルモ掛地ニ海産會館食車マレ

十一行六頁 本掛イ財室ハ對岸一里半ニシテ谷長ニ馬車ヤ並ス冬季財室ノ枯水中ハ其掛

芥知諭掛

十四行六頁 懸ノ南側懸テ亦林ニ暴風懸マレ

落中懸

二十六頁 懸日田ニ暴風懸マレ

乳岩懸

チノマレイカム

三十四頁 蔬菜ノ不文モ善其掛懸マ日用品モ掛ヘシ田高懸マレ又井水ハ其掛量ノ

根室市街ノ西端ハツタラヨリ國後ノケラムイ崎ニ海底電線ヲ通ス

知床岬

八十行 四四度一八分ヲ四四度二一分ニ改ム

八十五行 網走村ヲ網走町ニ改ム

八十五行 方形岩アリノ下、ワタラ岩ト曰フ、ヲ加フ

八十五行 網走町ハ人口二千五百餘、牧畜、雜商業多シ支廳、郵便電信局、測候所アリ又病院及大旅店アリ○物産ノ主ナルモノハ鮭、鱒、鱒ナリ

航海季節ニハ一ヶ月間根室ヨリ二回小樽ヨリ三回ノ定期汽船ノ交通アリ

氣候ハ明治三十一年ノ最高溫度ハ九〇度最低ハ零下三度ニ至リ降雪ハ大約十一月ニ始リ四月ニ止ム積雪ハ六七呎ニ至ルコトアリ

風土病ハナキカ如キモ麻刺利亞、癩麻質斯、呼吸氣病多シ病院ハ官ノ保護ヲ受ケ醫療器具稍完備ス病室ハ五アルモ清潔ナラス

供給品

冊録品

受々醫藥器具餘宗論ニ録室ハ正マシテ書寫セマス

風土録ハヤチヤ成キテ麻味味亞斯麻實謀知如麻味々々録刻ハ官ノ附録キ

十一民ニ故リ四民ニ五々蘇書ハ六十知ニ至ハエイマレ

康刻ハ四部三十一半ノ最高監刻ハ式〇更最刻ハ零不三更ニ至テ斜書ハ大條

録書季節ニハ一々民間録室ヨリ二回小録ヨリ三回ノ安眠片録ノ交並マレ

刻刻大越刻マレ〇碑蓋ノ主ナシテハ輪換輪セリ

際去刊ハ人口二千五百箱并寄縣商業々々支編海動雷計風斷刻刻マレ又録

式紙岩マレノ下マレ岩イ曰マレマレ

際去刊モ際去刊ニ也

四四更一八分モ四四更二一分ニ也

映末聊

財室市街ノ西端ハマレマレ〇園録ノマレマレト録ニ載風雷録マレ

本
八十五頁

十一
八十五頁

計
八十五頁

十三
八十五頁

八十六頁
一行
八十六頁
十行ノ次

牛肉、魚肉ハ多少得ラルヘク野菜ハ其季節ニ於テ多量ニ得ヘシ
淡水ハ數所ノ井水アルモ稍可ナルモノハ量少ナシ其價一噸約三圓ニシテ水
樽ヲ以テ運搬スルカ故ニ不便ナリ

暴風標ハシレド岬ノ内方高崖上ニアリワタラ岩ノ南東錨地ノ好目標トナル

氣象

左ニ掲クル表ハ網走測候所ニ於テ最近十年間ニ施シタル檢測ノ平均ニ係ル

雨雪ノ日數	流行風方向	風ノ速度平均
15. 1	W.,N.W.	3
13. 2	N.,N.W.	3
13. 0	N.W.,S.	3
10. 5	S.,N.	3
11. 3	S.,N.	3
12. 9	S.,N.	3
12. 0	S.,N.	2
10. 4	S.,N.	3
12. 8	S.,N.	3
13. 5	S.W.,S.	3
14. 0	S.W.,N.W.	3
15. 1	S.W.,N.W.	3

風向式	風速平均	雨日
W.N.W.	3	1.1
N.W.W.	3	2.8
S.W.W.	3	0.8
N.S.	3	10.2
S.N.	3	11.3
S.N.	3	12.0
N.S.	3	12.0
N.S.	3	10.4
S.N.	3	12.8
S.W.S.	3	13.2
S.W.N.W.	3	14.0
S.W.N.W.	3	12.1

式ニ計ルニ表ハ離去時刻ヲ示シテ最長ノ半間ニ就クニ計ルニ計ル
 廉泉

暴風對ハシメテ内式高嶺土ニマリマシメテ南東論此ノ後日對イテ
 對マシテ數計ルニ不測ナリ
 對水ハ燻沢ノ井水マシメテ計ルニハ量少キ其間一測深三圓ニシテ水
 半肉魚肉ハ全ク計ルニハハ裸菜ハ其季節ニ依テ量ニ計ルニ

月次	晴雨計平均	寒暖計平均(華氏)
一月	29.88	19.6
二月	29.94	19.9
三月	29.97	25.5
四月	29.93	38.7
五月	29.85	46.8
六月	29.82	54.1
七月	29.80	62.6
八月	29.83	67.1
九月	29.94	59.7
十月	29.97	48.6
十一月	29.96	37.0
十二月	29.88	37.2

能取岬

八十六頁
 十二行
 此岬近傍ニアル島嶼ヨリ北方半涅ノ處ニ二箇ノ破浪礁アリ和船ハ此礁ト該
 島嶼トノ間ヲ通航ス

常呂

八十七頁
 一行
 十二里ヲ八涅ニ一巨川ヲ常呂川ニ改ム
 八十七頁
 三行ノ次
 常呂川口ヨリ海方約半涅ノ處ニ二箇ノ干出岩アリ北東、南西ノ方向ニ列ス

三行六六 常呂川口ニシテ式樣半野ノ線ニ二箇ノ干出峯々ニ北東南西ノ式向ニ既ス
 八十五頁
 八十六頁 十二里ヲ入野ニ一戸川ヲ常呂川ニ改ム

常呂

島嶼イノ間ヤ巖嶺ス

十二行 八十六頁 此岬並對ニマシ島嶼ニ北式半野ノ線ニ二箇ノ如形巖々ニ味備ハ此嶼イ結

嶺岬岬

信測寒	信雨節	大	日
(丸華) 日平	日平		
0.01	88.00	日	一
0.01	20.04	日	二
0.02	20.07	日	三
0.08	20.03	日	四
0.04	20.80	日	五
0.11	20.82	日	六
0.02	20.80	日	七
0.11	20.83	日	八
0.02	20.04	日	九
0.04	20.07	日	十
0.07	20.00	日	十一
0.12	20.88	日	十二

五十七頁 十三里ヲ十一湮ニ改ム

勇別

八十七頁 三十二里ヲ二十九湮ニ改ム

八十七頁 勇別ニハ人家約三四十戸アリト改ム

紋別

八十八頁 四十四里ヲ四十二湮ニ改ム

八十八頁 軍艦武藏ハ紋別埼ヲ北西ノ西ニナン子ナイ人家ヲ南西ノ西ニ望ミ水深六尋
 十一行ノ次 沙底ノ處ニ投錨セリ此處錨搔甚善シ然レトモ附近立網ノ布設アリ注意スヘ

シ○紋別埼ノ外端ニ神社及華表アリ識別シ易シ

紋別村ハ灣濱ニアリ人口千八百餘、産物ハ鱒ヲ主トス野菜類ハ多少得ラル
 ヘシ井水アレトモ飲用ニ適セス

海岸

八十八頁 十三行 紋別ヨリ宗谷ニ至ル約九十湮ノ海岸ハ約北西ノ北ニ走り其枝幸ニ至ルマテ

八十三頁
八十八頁
妹川ヨリ宗谷ニ至ル際六十里ノ嶺ヲ越スルハ其北西ノ山ニ去リ其北幸ニ至ルマデ
嶺上

ヘシ其木マレイテ増田ニ産ス

妹川林ハ鬱蒼ニマレ人口千八百餘童叢ハ難キ主イヌ裡菜蔬ハ乏少野ニ

○妹川嶺ノ水産ニ種族以華夷マレ妹川ニ産ス

必強ク鯨ニ對敵ナリ此嶺嶺甚善ニ然レイテ捕立難ク亦捕マレ其意スハ

六十一頁
六十八頁
軍艦矢嶺ハ妹川嶺キ北西ノ西ニヤモヤト人家キ南西ノ西ニ望シ水將六藝

六十八頁
四十四里キ四十二里ニ改ム

妹川

八十二頁
八十三頁
更田ニハ人家餘三四十戸マレイ改ム

八十三頁
三十二里キ二十式野ニ改ム

更田

八十五頁
十三里キ十一里ニ改ム

ハ其内方ハ草木繁茂セル丘陵山脈連亘スト雖濱方ハ低地ニシテ處々ニ低角
斗出シ且濱礁散布ス故ニ此部分ハ過度ニ近寄ルヘカラス

八十九頁
三行

九十頁
四十九里キ四十八里ニ改ム

九十一頁
一行ノ次
サンギウシ角及危険

枝幸角ノ南方約三^三/_四里ノ處ニアリ此角ヨリ北東方約一^三/_四里ニ水深二^三/_四尋ノ
暗礁アリ此附近ハ海底多岩水深不規則ニシテ之ト陸岸ノ間危険多シト云フ

現行枝幸錨地圖ハ一小部分ニ止マルヲ以テ直ニ入進ノ用ニ供スルニ足
ラス

枝幸町ハ戸數五百餘、人口約三千九百餘明治三十二年調近時沙金採收ノ爲メ來ルモ
ノ多シ此地郵便電信局、小學校及病院アリ○井水ハ一般ニ良好ナラス且結
氷期ニハ溜ル、モノアリ

航海季節中ハ小樽ヨリ往復ノ定期汽船一ヶ月二回アリ

津南幸前中ハ小嶽ニ并對シテ其間ニ
米賦ニハ斷ハ、チクマレ

ノ邊ニ此處津南幸前中ハ小嶽ニ并對シテ其間ニ米賦ニハ斷ハ、チクマレ
林幸川ハ只樓五百餘、人口餘二千六百餘二平町 町部三十 後湖心金針湖ノ爲ニ來ルチ
モス

與百林幸論此圖ハ一小時分ニ九マハキ以テ直ニ入並ノ用ニ持スルニ只
部辦テ、此湖邊ハ密苑邊岩水滯不賦限ニ、モ之イ對岸ノ間或劍迄イ云テ
林幸食ノ南式餘三ノ野ノ邊ニマレ、此食ニ北東式餘一ノ野ニ水滯二ノ野ノ
セシチウシ、食又或劍

一頁八六
八十一頁

十頁
六十五頁

四十武里モ四十八野ニ也ム
二十里モ十ノ野ニ也ム
長田ニ且密苑邊亦ス、姑ニ此湖心ハ密苑ニ邊寄ルヘカモス
ハ其内式ハ草木繁茂ナリ、且對山廻野巨ノイ難對式ハ舟車ニモマ、或々ニ舟車

風土病トシテハ儂麻質斯、繭虫多シ

九十一頁
五行

九十二頁
十一行

二十一里ヲ二十三湮ニ改ム
危險

水路告示第九九〇號ニ因リ全文ヲ削除ス
宗谷霧中信號

九十七頁
四行

九十八頁
一、二行

水路告示第九六七號ニ因リ、但以下全文ヲ削除ス
稚内町ハ人口六千三百餘、住民ノ職業ハ漁業ヲ主トシ、商之ニ次ク支廳郵便
電信局等アリ、又私立病院ニケ所アリ

小樽其他ト定期汽船ノ交通頻繁ナリ

供給品

漁期ニ魚類ヲ得ヘキモ野菜類ハ住民ノ自用ニ止マリ、獸肉ノ如キハ得難シ○
淡水ハ數ヶ所ノ貯水槽アリト雖、水質良好ナラス、且其量少ナシ、稚内川ノ水モ
亦其質不良ナリ

亦其實不頁也

野木ハ燻マ祖ノ領木辭マレイ鐵木賣更汝マラス且其量少ナシ蘇内川ノ水ヲ
蘇内川ニ魚鱒モ畚ヘチヲ得茶賤ハ掛男ノ自用ニ五マレ燻肉ノ味チハ畚鱒ニ○
掛品

小對其並イ安謀片備ノ交蘇賤業マレ

雷計風等マレ又味立蘇割ニマ祖マレ

蘇内川ハ人口六千三百餘掛男ノ蠶業ハ蘇業キ主トシ商ニ六々支蘇海邊

水割告示榮式六子蘇ニ因レ掛以不全文キ附割ス

宗谷霧中計蘇

水割告示榮式式○蘇ニ因レ全文キ附割ス

武劍

二十一里キ二十三野ニ也

風土録イニマハ對蘇賣蘇鱒虫也

九十八頁
八行ノ次

稚内燈臺

野寒岬端ニ設置ス○鐵造圓形紅塗○第三等白色閃光○明弧ハ北二七度東ヨ
リ北四四度西マテ二八九度間ニシテ每十五秒時二閃光○燈高ハ海面上二三
八呎晴天光達十八哩

附屬ノ霧笛ハ每二分時間ニ低一聲高一聲トス

海底電線

ユウチ岬ノオチトマナイト利尻島石埼トノ間ニ海底電線アリ

利尻島

○本島人口一萬餘

人口ヲ削除ス

海底電線

本島北端近傍ト禮文島ノ南頭近傍トノ間ニ海底電線アリ

鴛泊村ノ人口ハ千四百餘、役場及公立病院アリ住民ハ過半漁業者ニシテ商

九十九頁
十一行ノ次

百頁六行
ニ加フ

百頁七行

百頁八行
ノ次

百二頁五
行ノ次

百六頁

蠶絲林ノ人口ハ千四百餘、皆以公立蠶絲ヲ以テ其ノ蠶半蠶業者ニシテ商

百六頁

本島北嶽

百六頁

人口モ附録ス

百六頁

○本島人口一萬餘

味風島

エウヤ岬ノ本モイマセトイ味風島ニ於テノ間ニ嶽嶺重嶺ヲ以テ

百六頁

嶽嶺重嶺

嶽嶺ノ嶽首ハ嶽ニ於テ間ニ於テ一嶽高一嶽イヌ

八咫御天光嶽十八咫

北四四咫西マテ二八咫間ニシテ嶽十五咫嶽ニ閃光○嶽高ハ嶽面土一三

裡寒岬嶽ニ嶽置ス○嶽嶽圓嶽珠嶽○嶽三善白嶽閃光○閃光ハ北二ノ東東

百六頁

嶽嶺重嶺

百六頁

之ニ次ク漁獲ハ鯉ヲ主トス

百六頁

飲料水ノ末文ニ、其質佳良ナリ、ノ六字ヲ加フ

百六頁

水路告示第九九〇號ニ因リ疑礁及バルリック岩ノ全文ヲ削除ス

百六頁

海岸

ユウチ岬ヨリ南方苦前埼ニ至ル約五十七哩ノ海岸ハ僅ニ弧形ヲ成シ殆ト直

條ニ走り風連別以南ノ岩岸ヲ除ク外ハ一帯ノ沙灘ヲ成シ水深ハ距岸約五鏈

ニ於テ約三尋ヨリ深ク羽幌礁ヲ除ク外險礁アルヲ認メス○其ユウチ岬近傍

ヨリオタクシベツニ至ル(三十五哩)間ハ平低ノ沙濱ニシテ内方ハ蔚黒タル

森林起伏漸昇シ一望殆ト全形ニシテ目標トスヘキ一顯著ナルモノナシ唯天

鹽以北ハ全ク平坦ニシテ以南ハ高約二百呎至五百呎ノ低山脈南方ニ向ヒ漸

起シテ海岸ニ達ス○其オタクシベツ以南ハ瀕ニ接シ高約百呎乃至百六七十

呎ニシテ鋸齒狀ヲ成セル薄褐色斷崖ヲ見ルヘシ而シテ該斷崖ヨリ内方ハ樹

山麓賦ニ一チ臨著ノ對セシ

知ニシテ磯崎ノ岨ヲ以テ磯崎ノ瀨里ヲ見ルヘシ而シテ磯崎里ニ内式ハ樹

賦ニテ磯崎ニ對ス○其トモトモヘシ以南ハ磯ニ對シ高嶽百知式至百六十

鹽以北ハ全ク平坦ニシテ以南ハ高嶽二百知至五百知ノ山脈南式ニ向テ瀨

森林賦ノ瀨里ニ一望ノ全派ニシテ目撃イヌヘキ一臨著ヤハチクセシ御天

ヒリトモトモヘシニ至ル(二十五野)間ハ平坦ノ岨ニシテ内式ハ藪黒クシ

ニ然ラザルニ暮ヒリ彩ク陸嶽ヲ斜ク依劍嶽マシマ臨メス○其ニヤモ岨ノ對

斜ニ去リ風野岨以南ノ岨嶽ヲ斜ク依ハ一帶ノ岨ヲ如シ木葉ハ磯嶽正嶽

ニヤモ岨ヒリ南式苦前嶽ニ至ル際正十野ノ岨嶽ハ對ニ麗派ヲ如シ依イ直

磯嶽

大ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ
式ニ其間ニ

水瀨書示榮式式○總ニ因リ磯嶽ノ岨ノ岨ノ全文モ附録ス

岨嶽木ノ末文ニ其實岨頁ヤリノ六字モ附セ

式ニ六ノ岨嶽ハ輪モ主イヌ

河川ハ此沿岸中數所アルモ船艇ノ出入シ得ルハ天鹽、遠別ノ兩河ノミニシ
テ村落ハ十戸以上ヲ有スルモノ四五ヶ所ニ過キス

錨地ハ此沿岸中初山別附近ノ岩底ヲ除クノ外ハ總テ距濱五鏈ニシテ水深三
尋至六七尋底質沙或ハ泥ナルヲ以テ西半圓ヨリ吹來スル風ノ外ハ到ル處水
深適宜ノ處ニ投錨シ得ヘシ○風連別ト初山別ノ間ハ瀕礁沿布シ且海底凸凹
ナルヲ以テ大船舶ハ距濱半哩以内ニ接近スヘカラス

氣象

明治三十一、二年ノ實驗ニ據レハ天鹽沿岸ニ於テハ五、六、七、八ノ四ヶ月ハ天
候概テ穩和ナリ唯大潮ノ前後ニ於テ時トシテ強風ヲ來タスコトアルノミ九
月ニ入レハ回數少ナキモ強風漸ク始マリ十一月ニ至レハ降雪ヲ來タシ十二
月ヨリ翌年三月ニ至ルマテハ強風降雪頻繁ニシテ好天氣稀ナリ而シテ四月
ヨリ漸次穩和ニ赴クト云フ

霧ハ六月中旬ヨリ七月中ハ霧期ニシテ天鹽以北ニ多ク以南ニ少ナシ而シテ

霧ハ六月中旬ヨリ十日中ハ霧限ニシテ天鹽以北ニ多ク以南ニ少クシテ面々
 日ハ漸次蘇味ニ極ムト云ク
 日ヨリ登平三民ニ至ルマテハ颶風斜雲継業ニシテ我天原蘇味ヤリ面々四民
 民ニ入レハ回艘少キチ颶風漸ク故アリ十一日ニ至レハ斜雲ヤ來ル十二
 日漸ク蘇味ヤリ即大斷ノ前鋒ニ成テ抑イシテ颶風ヤ來ルスエイマハク三日
 即前三十一二半ノ實録ニ對シテ天鹽郡界ニ成テハ五十六八ノ四々日ハ天
 原界

テハモ以テ大磯嶺ハ強弱半野以内ニ對テスヘカラス
 新巖宜ク颶ニ對テシテ○風勢聞イ山開ノ間ハ颶勢亦シ且新巖凸凹
 尋至六十尋強實也近ハ式ヤハモ以テ西半圓ヨリ來ル風ノ快ハ陸ハ銀水
 齡此ハ北郡界中阿山開開茂ク峯嶺モ斜々ノ快ハ蘇味強弱正輪ニシテ木料三
 テ林落八十以上モ育スハチノ四五々日ニ斷チス
 阿川ハ北郡界中艘視マハチ磯嶺ノ出入ノ勢ハ天鹽 嶺聞ノ兩面ノシニシ

偏南風ハ霧ヲ起シ偏北風ハ清朗ノ天氣ヲ來タス○八月初旬ヨリハ霧全ク霽
 レ風ハ西偏北ヨリ多ク輕吹シ此月中好晴穩和ノ日多シ

海流ハ一般ニ海岸ニ沿フテ北流ス其速度約二分一節乃至四分三節又北風ノ
 トキハ屢微弱ナル南向面流ヲ驗スルコトアリ

稚咲村

ユウチ岬ノ南方約六哩ニシテ濱上ニアリ拔海村以南ノ通路ニ當リ唯郵便繼
 立所及二戸ノ旅店アルノミ

天鹽川

源ヲ上川郡十勝石狩二嶽ノ北ニ發シ約百四十哩ヲ流レテ稚咲ノ南方約十四
 哩ノ處ニ於テ海ニ注ク其海ニ近キ部分ハ天然ノ平低ナル二大長沙堤ヲ以テ
 海面ト相隔ツ而シテ河口ハ該兩堤間ニ位置シ其幅約五百碼ニシテ門洲之ヲ
 横斷ス然レトモ洲上ノ可航水道ハ八呎乃至二十一呎ノ水深アリ○河幅ハ河
 口以北ハ約二鏈水深八呎乃至十五呎泥底ニシテ小船ノ錨地ニ宜シ又河口以

口以北ハ條ニ輪木將八町氏至十五町氏迄ニシテ小橋ノ離取ニ宜シ又河口以
對瀨ノ然レイテ橋土ノ河越木並ハ八町氏至二十一町ノ木將マレ○而神ハ河
面ノ林嗣々而シテ河口ハ越兩段間ニ設置シ其嗣條正百餘ニシテ門橋之マ
野ノ風ニ吹テ密ニ書ク其密ニ致テ船台ハ天然ノ平沙ヤハ二大具也其マ以テ
越キ土川雅十廻石橋ニ繼ク其ニ登シ條百四十町ヲ越レテ神知ノ南式條十四

天鹽川

立河又二町ノ越古マレシ

エウヤ申ク南式條六町ニシテ越土ニマレテ對神林以南ノ越越ニ當リ神瀨野瀨

神知林

イチハ風燐燐ヤハ南向面流モ越々マレシ
越越ハ一廻ニ密岸ニ出テマレテ北流ス其東更條二谷一箇氏至四谷三箇又北風ノ
風ハ西向北ヨリ冬ノ強烈ニ地中致潮濕味ク日差シ
爾南風ハ霧モ強シ爾北風ハ雷腹ノ天聲モ來マレ○八民傳田ヨリハ霧全ク養

南ハ長約一湮ニ止マリ水稍淺シ○河口ヨリ上流ハ約四湮マテハ海岸ト全方
向ニ走り夫ヨリ數湮ノ間東方ニ折レテ上流ニ數湮ヲ進ミ又南東方ニ屈曲シ
尙上流數十湮マテ小舟ヲ通ス故ニ此河ハ木材ノ輸出ニ至大ノ便トナル
河口ノ對岸ニ天鹽村アリ戸數五十七、人口百二十三專ラ柚ヲ業トス郵便局、
浦役場及旅店等アリ○此人家ハ遠望顯著ニシテ河口ヲ認ムル好目標タリ○
該人家ノ前面ハ稍淺水ノ處アルモ三月ヨリ十月ニ至ル間ハ通例小廻船ノ數
隻碇泊スルヲ見ル是レ木材ノ輸出ニ從事スルモノナリ
產物ハ木材、薪木最モ多ク鮭、鱒、馬鈴薯及野菜ハ少量ナリ
水

淡水ハ井水乏シカラサルモ水質善良ナラス○河水ハ清カラス且八月以降ハ
汚濁トナリ雜用水ニモ適セス

門洲

天鹽川口及該門洲ノ位置及水深ハ季節ニ因リ冬少移動アリ乃チ該門洲ハ冬

天鹽川口又遠門橋ノ付置又水將ハ季溜ニ因リ多ク凍結スルハ此ノ遠門橋ハ冬
門橋

河内イセリ藤川水ニテ盛ナク

將水ハ井水ニシテ水質善更ヤマス○河内ハ南東式ニ風曲
水

魚野ハ木林藤木最チ多ク鹽鹼濕餘蓄又野菜ハ少量セリ

雙嶺山スルヤ見ル景ノ木林ノ鱗出ニ資率スルヤテクセリ

婦人寒ノ前面ハ餅對木ノ製マハテ三日ニ至ル間ハ魚野ノ小魚備ク獲

節對野又越野等々○此ノ人寒ハ葦葦鰯蓄ニシテ河内モ鹽ルヤ目野セリ○

河内ノ樓嶺ニ天鹽林ヤリ又樓正十ノ人口百二十ニ專ク林ヤ業イテ海野風

尙土葦樓十野マテ小舟ヤ製ス姑ニ此河ハ木林ノ鱗出ニ至大ノ野イセヤ

向ニ去リ夫レハ樓野ノ間東式ニ流レテ土葦ニ樓野ヤ並ニ又南東式ニ風曲

南ハ葦葦一野ニ去リ水節對○河内モ土葦ハ葦四野マテハ葦葦イ全式

季ニ於テハ僅ニ干出スルニ至リ又融雪期即チ四月上旬以後出水ノ頃ヨリ七
八月頃マテハ稍水深キモ其以後ハ風浪ノ起ル毎ニ漸次水深ヲ減スト云フ○
河口ハ出水緩ナル時ニ於テハ河流ノ速度約一節乃至二節ナルモ出水強キ時
ハ三節餘ニ至ルコトアリ又波浪高キトキハ小舟ノ出入スルヲ得ス

遠別川

天鹽川口ノ南方約十哩ノ處ニ於テ海ニ入ル其上流一哩餘ノ處マテ小舟ヲ通
スヘシ○河口ノ上流約五哩ニ於テ數戸ノ人家アル近傍マテハ濤筋ノ水深三
呎乃至六呎アリ○此河口ハ融雪出水ノ後五、六、七ノ約三ヶ月ハ小舟ノ出入
容易ナルモ出水緩ナル七月下旬以降ハ沙堆ノ變移ニ因リ河口屈折シテ容易
ニ出入スルコトヲ得サルニ至ル然レトモ雨後出水ノ後ハ又容易ニ出入シ得
ルコトアリ

河水ハ雨後ノ混濁ヲ除ク外ハ概チ清澄ニシテ土民ハ之ヲ飲用ニ供ス故ニ端
舟ヲ入ル、ヲ得ルトキハ多量ノ雜用水ヲ得ヘシ○馬鈴薯及野菜類ニ乏シカ

冊品

一、二、回野鼠マ

備へ不宝陳セヨチ冬季モ斜々ノ代近武旗行ノ小片備一々凡五六回番成ニ又
マ掛另ハ並平急ニ解成セヨ、マハ並和種更番計鼠モ置クニ火スイ云テ○六
ニ臨番セリ掛另ハ魚業香鼻ヲ迄々商之ニ夫々○此林ハ此部嶽中ノ主林ニシ
風野鼠ノ南式隊ニ野半ニマハ一團ノ林蔭ヲ燻燻八十ニシマ野鼠式ヒリ望ム
味山鼠

チ山口對ニシテ五六尺ノ距離ニ小供ノ出入モ替ハクシ

鼠ハ野鼠マレイ概一ノ冊品マシ○林ノ南端ニ小洞マレ木辭モ柴々然ノイ

鼠ノ南式隊ハ野鼠嶽ノ地鼠ニマハ小林蔭マレ専ラ魚業ニ寄事ス受ニ海鼠

風野鼠

野鼠口ノ土鼠隊五野ニ人客ニ百箱マレ昔農業ニ寄事ス

マシ

罐詰、野菜類及魚類ハ多少得ラルヘシ○井水ハ善良ナラス村落ノ北端崖下
ノ海邊ニ一湧水アリ箱中ニ貯溜シ飲用ニ供ス○産物ハ鮭、鮭、鱒及金海鼠
等ナリ

百十頁十
三行ノ次

暗礁

苦前埼上ノ神社ヨリ北ノ西^{五/八}西一湮ニ水深三尋ノ暗礁アリ其近傍ハ岩底凹

凸ナリ

海底電線

苦前村ト焼尻島トノ間ニ海底電線ヲ通ス

百十一頁
八行

飲料水ノ一項ヲ左ノ如ク改正ス

飲料水ハ一般ニ多量ニシテ湧泉ヲ水道ノ方便ニ依リ導ヒケルモノアリテ其

質良好ナリ唯井水ハ概シテ善良ト謂ヒ難シ

百十二頁
八行

焼尻島ハノ下ニ、高三〇三呎ノ、ノ六字ヲ加フ

天賣島

天賣島

八行
百十二頁

熱風島ハノ下ニ高二〇三呎ノ六字ヲ賦テ

賢貝取ヤリ御共木ハ辨シキ善貝イ階ヨク

燗株木ハ一畑ニ冬量ニシテ燗泉モ木並ク式動ニ対シ準メテヤシクテ其

八行
百十一頁

燗株木ノ一取モ式ノ成ク如ク

苦節林ノ熱風島ノ間ニ密道重懸キ賦ス

密道重懸

凸ヤリ

苦節林土ノ幅狭キ北ノ西ハ西一畑ニ木並ニ暮ク節林マシ其近邊ハ岩並凹

三行
百十頁

節林

善ヤリ

ノ密道ニ一畑木マシ餘中ニ節林ノ燗用ニ掛ス○燗林ハ燗株木燗金燗泉

燗林ノ裡菜取又魚取ハ冬少掛マシヘシ○共木ハ善貝ヤリス林並ノ北燗泉ノ

百十四頁
五行

最高點ノ下(高六一〇呎)ナル括弧及高度ヲ加フ

百十七頁
四行ノ次

海底電線

燒尻ト天賣トノ間即チ武藏水道ノ北口ヲ横切り海底電線ヲ通ス

増毛埼

百二十四頁
一行

南々東^ニ東ハ南々西^ハ西ニ改メ孤立シノ下ニ高一〇五五呎ノ六字ヲ加フ

全三行

増毛泊地ノ下傍ニ海圖第三八一號ヲ見ヨノ十字ヲ加フ

石狩

百三十四頁
ノ次

小船ノ錨地ハ河口ヨリ上流約一哩ニシテ右岸ニ近キ處ヲ最良トス此地水深

約五尋ニシテ流勢緩ナリ

小樽

百三十七頁
ノ次

浮標

港ノ北部ボン泊ヨリ南東方約六鏈ノ處ニ浮標ヲ置キ防波堤捨石ノ極端ヲ示

ス○該標ハ木造截頭方錐形紅色ニシテ上部ニ球ヲ冠シ下部ニ二箇ノ紅燈ヲ

計五
十二頁八
百五十一
頁十一

内ニマシテ面シテ其景ヲ盡出スル濠谷ハ川白岫イ其北ニセトクハ岫ノ間
不スルモ以テ盡望ヲ界ク岫ノ○北岫嶺ハ峯ニ對照部亦スイ嶺皆岫嶺半野以
ニ此岫ノ北イ餘ニ野マシテ岫内岫ニ至ル迄ハ辨テ樂處ニシテ岫ノ北山脚急
岫岫岫ニシテ嶺嶺ハ南式ニ去ルヒイ餘ノ野ニシテ川白岫ニ至リ夫ニ南東式

嶺嶺

百六
頁六十八

嶺嶺樂留用ノ二嶺卒ハ嶺土ヲ以テ其馬車ヲ附録ス
ノ二嶺間ニシテ岫嶺ハ嶺マシ

嶺嶺ノ嶺嶺ハ大嶺一且ノ岫ニ四且中岫イ其且ノ岫ニ十二且中岫イ

百十三
頁三十三

嶺嶺ノ嶺嶺ハ大嶺一且ノ岫ニ四且中岫イ其且ノ岫ニ十二且中岫イ
嶺嶺ノ嶺嶺ハ大嶺一且ノ岫ニ四且中岫イ其且ノ岫ニ十二且中岫イ

嶺嶺ノ嶺嶺ハ大嶺一且ノ岫ニ四且中岫イ其且ノ岫ニ十二且中岫イ
嶺嶺ノ嶺嶺ハ大嶺一且ノ岫ニ四且中岫イ其且ノ岫ニ十二且中岫イ

ニ於テ距岸殆ト四鏈ニ位シ其高僅ニ四呎ナリ又此岩ノ内方ニ窓岩ト稱スル
双頭ノ巨岩アリ高一三六呎

此沿岸ハ錨地ナシ

マツカ岫ヨリ南東方神惠内ニ至ル四湮半ノ海岸ハ半部ハ險崖絶壁ニシテ夫
ヨリ半部神惠内迄ハ礫瀨ニシテ多岩ナリ

神惠内灣

マツカ岫ノ南東ニ東四湮半ニアル一小灣ニシテ灣口濶三鏈半彎入二鏈其中
央ハ水深二尋乃至二尋半沙底ニシテ偏西風ヲ除ク外夏季平穩ノトキニ於テ
ハ小船ハ錨泊スルヲ得ヘキモ保薦スヘキ處ニ非ラス和船(四五百石積)ハ該
灣ノ南東方一湮ノ地ニアル辨才泊ト稱スル一小灣ニ泊スルコトアリ然レト
モ此灣ハ北西ニ面シ廣僅ニ一鏈内外、神惠内ヨリ淺キヲ以テ四方繫索ヲ用
ユルヲ要ス○神惠内灣岸ハ云々在來記事ノ通

灣首ニ神惠内村アリ此近傍ニ於ケル一大漁村ニシテ人口二千百餘、戸長役

百五十二
頁十一
二行

灣首ニ輻惠内林マレ此邊將ニ然ルハ一大魚林ニシテ人口二千百餘ト見劣
エハキ要ス○輻惠内灣岸ハ云々亦來馬車ノ故

于此灣ハ北西ニ面シ寬野ニ一輪内代輻惠内エリ對キヤ以テ四式藥索ヤ用
灣ノ南東式一野ノ此ニマレ辨木内イ辨スハ一小時ニ成スハロイマレ然レイ

ハ小磯ハ論成スハキ辨ヘキチ辨蕪スヘキ諷ニ非マレ味儼四五百ト計ハ結
央ハ木彩ニ暮氏至ニ暮半也風ニシテ論西風ヤ斜レ依夏季平野ノイキニ然マ

マレ此岫ノ南東式東四野半ニマレ一小灣ニシテ灣口斷ニ輪半辨人ニ輪其中
輻惠内灣

エリ半階輻惠内迄ハ樂處ニシテ冬岩ヤリ
マレ此岫エリ南東式輻惠内ニ至ハ四野半ノ辨岸ハ半階ハ劍嶺辨望ニシテ夫

此岫岸ハ論成ヤリ
双頭ノ巨岩マレ高一二六尺
ニ然マレ強氣候ノ四輪ニ立シ其高野ニ四尺ヤリ又此岫ノ内式ニ窓岩イ辨スハ

場郵便電信局等アリ○灣首ノ南東ニ注ケル神惠内川ハ淡水多量ニシテ直
ニ端舟ヲ以テ取り得ヘシ
茅沼

南東ノ南約五哩四鏈ヲ南々東方五ノ哩ニ改正ス

岩内灣 海圖第四六五號ヲ看ヨ

灣岸ハ概テ沙濱及礫濱ニシテ市街ノ約中央ヨリ少シク北方ニ突出セル低沙
角アリ之ヲ稻穗埼ト曰フ該埼附近ハ距岸三鏈マテハ五尋ヨリ淺クシテ海底

磊石擴布スルヲ以テ波浪少シク起ルトキハ忽チ洗フ
錨地

前記ノ石堆ハ波浪ヲ碎クヲ以テ小船ハ其東方ニ於テ泊シ得ルノ便アリ又大
船ハ稻穗埼ノ北方約四鏈即チ市街東部ノ低山端ヲ東ノ北ノ北ニ稻穗埼ノ西

側ヲ南々西ノ西ニ望ミ水深七尋沙底ノ處ニ錨泊スルヲ得此處錨搔惡シカラ
ス軍艦武藏ハ嘗テ此ニ投錨セリ然レトモ西風又ハ北風アルトキハ安全ナラ

軍艦海軍ハ昔々此ニ對敵ナリ然レトテ西風又ハ北風マハイキハ安全ヤモ
聞キ南々西々西ニ望ミ木柵ヲ尋ビ取ル風ニ敵艦スハキ野地敵艦懸想ニ成マ
敵ハ敵艦欲ク北々隊四輪帆ヤ市街東階ク山嶺モ東々北々北ニ敵艦欲ク西
前臨ク不鮮ハ敵艦キ和々モ以テ小敵ハ其東々ニ敵艦モ野地懸想ニ成マ
敵艦

頁十二
頁十三
頁十四

諸江灘市スハキ以テ敵艦少シモ味ハイキハ感ヤ振テ
魚ノリ之ヲ敵艦欲ク日々敵艦捕取ハ強氣三輪マモハ正尋ヒテ對々ニモ敵艦
敵艦ハ敵艦キ必敵艦ハ敵艦ニモモ市街ク隊中央ヒリ少シモ北々ニ突出ナリ

頁十三
頁十四

岩内縣 岩内縣 岩内縣 岩内縣 岩内縣
南東々南隊正野四輪ヤ南々東々正々野ニ敵艦五々
茶器

ニ敵艦モ以テ野地懸想ニ成マ
敵艦對敵艦風善マリ○敵艦首ク南東ニ掛クハ敵艦内川ハ敵艦水量ニモモ直

ス

北方ヨリ錨地ニ向フトキハ修善寺及其東側ニ高ク位置セル學校ハ好目標ト
ナルヘシ

緋網ハ三月下旬ヨリ五月下旬マテハ全岸相距ニ二鏈乃至ニ二鏈半ノ間寸地ヲ餘
サス張出ス

岩内市
該市ハ人口一萬二千餘、郡役所、裁判所、郵便電信局、病院等アリ日々繁榮ノ兆
アリ

供給品

鶏、鶏卵、牛肉ノ少量ヲ得ヘシ野菜、魚類ハ重ニ夏期ニ得ラル石炭ハ茅沼産ニ
シテ常ニ約五千噸ヲ貯藏ス其價一噸五圓以内トス
飲料水ハ當時井水ヲ用ユレトモ其質不良ナリ野東川ノ水質善良ナルカ故ニ
不日此河水ヲ導キテ水道ヲ設クルノ計畫アリ

不日此河水を導き水産を獲くべく計畫あり
船株本ハ當湖井水を用い其費不負なり
此東川ハ水質善真なり其効ニ
ニテ常ニ藤正千脚を製し其質一脚正圓以内イテ
饅饅限半肉ノ少量を貯ヘシ裡菜魚味ハ重ニ夏味ニ替マシテ
其味ハ甚佳ニ

岩内市ハ人口一萬二千餘人其地ハ山嶺連綿ニ輪氏至ニ輪半ノ間ヤ此を
岩内市

サス野田

輪氏ハ三民不田ニ正民不田ニマハ全嶺連綿ニ輪氏至ニ輪半ノ間ヤ此を
サス野田

此氏ニハ論此ニ向テイキハ善善寺其東側ニ高く立置サス學對ハ我目對イ

交通

百五十五
行三五

夏期ハ青森、函館、小樽、壽都ノ各地へ百噸未満ノ汽船絶エス往來ス冬期ト雖
平穩ノトキハ便船アリ又波浪平穩ノトキハ磯谷、泊、神惠内へ一日一回小汽
船ノ往復アリ

明治三十一年中ニ於ケル出入船舶ハ大約二十萬七千噸ナリ

雷電岬 一名刀掛埼

百五十六
至七行
乃十行

稻穂埼ノ南西ノ西六湮半ニアル黑色ノ險崖ナリ北東又ハ南西ヨリ望ムトキ
ハ顯著ナリ又近ツクトキハ岩層斜ニ露レ頗認識シ易シ

海岸

百五十六
ノ次
十三行

此沿岸ハ漁村相連ナル其最大ナルモノハ磯谷郡ニ於テ能津登村(人口九百
餘)歌棄郡ニ於テ潮路村(人口千百餘)ニシテ共ニ郵便電信局アリ

尻別川

雷電岬ノ南西ノ南三湮ニアリ此川ハ該近傍ニ於ケル大川ニシテ諸川ヲ合シ

雷雷岫ノ南西ノ南三懸ニマレ地川ハ蘇連河ニ流ル大川ニシテ精川ヲ合シ

風見川

鎗(船)瀬瀬港ニ流ル斷崖林(人口千百鎗)ニシテ共ニ海軍雷計局マレ

頁十三
頁十六

壽都

ハ龍著マレ又波々イキハ岩層隆ニ露ル頭臨臨ニ思シ

頁十
頁十六

雷雷岫一ノ八掛社

即部三十一半中ニ流ル出入磯岫ハ大深二十萬十千脚マレ

磯ノ掛岫マレ

平懸ノイキハ岫岫マレ又岫岫平懸ノイキハ岫谷岫岫惠内ヘ一日一回小岫

頁三
頁十五

交庶

夏岫ハ青森函館小懸壽都ノ谷岫ヘ百脚未懸ノ岫岫岫エス掛來ス冬岫イ岫

テ海ニ入ル

河口ハ其南角尻別岫ヨリ岩礁斗出シ又北角ヨリ沙堆擴延スルヲ以テ其可航
水道ノ幅ハ十碼内外ニ過キス其水深ハ約一尋ヨリ淺シ○河ノ左岸ニ五六百
石積ノ和船ノ泊スルヲ見タリ○吃水三呎ノ舟ハ上流五湮マテ沂航スルヲ得
ヘシ

川先ノソリ磯

尻別川北角ノ沙嘴端ヨリ南東ノ南五¹/₄鎗ノ地ニ水深五呎ノ一尖頭礁アリ其
周圍ハ直チニ八九尋ノ水深アリ

壽都港

頁五十七
頁四行

距濱六鎗ヲ一湮餘最近ノ濱ヲ距ル約四鎗ニ七尋ヲ約八尋ニ改メ西側ノ下ニ
岩埼以北ノ四字ヲ加フ

頁五十七
頁五行

十三尋ヲ十尋内外ニ改ム

頁五十七
頁六行

漁期ニ際シテハ港内漁網ヲ敷置シ浮標ニ依リテ之ヲ示スコトアリ

頁六十八
頁五十九
頁五十八

麻帆ニ割レテハ概内麻帆ヲ煉置テ新製ニ成リテ之ヲ示スルイマ
十三卷モ十卷内依ニ成ム

壽猪菰

瀧落六輪モ一野翁最近ノ説モ祖ハ藤四輪ニ十卷モ條八卷ニ成ク西關ノ下ニ
畠園ハ直ニ八尺幕ノ水將マシ

風阻川北流ノ必御識ヒテ南東ト南正ハ輪ノ此ニ水將正別ノ一尖頭懸マシ其
川式ノハリ懸

不蘇ノ味微ク酢スルモ見タリ○如木三別ノ快ハ土煎正野マテ飛廉スルモ掛
水並ク脚ハ十卷内依ニ懸キス其水將ハ條一幕ヒテ對シ○所ノ式氣ニ正六百
所口ハ其南流風阻脚ヒテ岩煎ト出テ又北流ヒテ必難難取スルモ以テ其百餘
テ密ニ入ル

頁五十九
頁三行

上陸所ハ測候所ノ北側ニテ沿岸礁ノ斷處ニアリ

甚多シテ甚多ク屢陸地ト交通ヲ斷ツコトアリト改ム

辨慶岬

頁五十九
頁八、九行

辨慶岬ヨリ南西ノ西白糸岬ニ至ル約十七湮ノ間ハ一大彎岸ヲ成スモ一ノ泊
船地ナシ海岸ハ概テ沙濱又ハ礫濱ニシテ岩石沿布シ濱上ハ漁家連ナリ背後

ハ直ニ高陸トナル

全十二行

持田岬

白糸岬ノ南西ノ南四湮ニアル臺形ノ險崖ニシテ岬上ノ山ハ樹木鬱蒼トシ狩

場山ニ相連ル○岬ノ附近ハ水深ク大船ト雖容易ニ近航シ得ヘシ

持田岬ヨリ海岸ハ南方ニ走ルコト約九湮半ニシテ瀨棚ニ至ル○此沿岸ハ相

距三鏈以内ニハ處々ニ岩石アルヲ以テ近航スヘカラス

瀨棚錨地

頁六十頁
頁九行ヨリ
頁百七十一
迄頁十二行

斷崖餘地

三輪以内ニハ、巖々ニ峯不マシキ以テ、波濤スヘカラス

耕田地トシテ、南西ニ去ルコトイハ、大野半ニシテ、斷崖ニ至ル。○此處、南ハ、

黒山ニ、耕田地トシテ、南西ニ去ルコトイハ、大野半ニシテ、斷崖ニ至ル。○此處、南ハ、

白糸岬ノ南西ト南四野ニマシキ、臺所ノ、劍嶺ニシテ、岬土ノ山ハ、樹木鬱蒼トシテ、

耕田地

全十二行

六里モ、大野ニ、近シ

ハ、直ニ、高野イセシ

嶺地ニシテ、南西ハ、耕田地トシテ、南西ニ去ルコトイハ、大野半ニシテ、斷崖ニ至ル。○此處、南ハ、

頁八十六

耕田地トシテ、南西ニ去ルコトイハ、大野半ニシテ、斷崖ニ至ル。○此處、南ハ、

耕田地

頁三十五

其地ニシテ、南西ニ去ルコトイハ、大野半ニシテ、斷崖ニ至ル。○此處、南ハ、

土割地ハ、斷崖ノ北側ニシテ、南西ニ去ルコトイハ、大野半ニシテ、斷崖ニ至ル。○此處、南ハ、

此錨地ハ、偏東風ヲ除ク外、總テノ風浪ニ暴露シ、決シテ好マシキ錨地ニ非ラス。然レトモ、近年利別川沿岸ノ殖民漸次増加スルニ、隨ヒ貨物ノ集散地トナリ、函館ヨリ小汽船ノ定期航海アリ。○此海岸ニハ、巨岩散點シ、其最モ外方ニアルモノハ、市街中央突出部ノ西方二¹/₄鏈ニ位シ、蠟燭岩ト稱ス。此岩ハ、高九十二呎ニシテ、一大盤岩上ニ屹立ス。

蠟燭岩ノ北西ノ西一¹/₄鏈ノ處ニ水深一尋ノ岩礁アリ、又北々東³/₄東三¹/₄鏈ノ地ニ干出一呎ノ岩礁アリ。

蠟燭岩ノ北東ノ東二鏈半距濱約半鏈ノ處ニ三個ノ巨岩竝列ス、其高一〇〇呎、乃至一二七呎アリ、之ヲ三本杉ト曰フ。夏期小汽船ハ、此岩ト蠟燭岩トノ間ニ假泊ス、然レトモ少シク波浪起レハ速ニ奥尻島ニ避ケサルヘカラス。○日本形船ハ、蠟燭岩ノ南方五鏈半ニアル掛島ト稱スル岩島ノ内部ニ泊スルヲ例トス。○此等ノ錨地ハ、冬季ハ勿論、天候平穩ノ時ニアラサレハ、近ツクヲ得ス。○軍艦武藏ハ、明治三十三年八月、蠟燭岩ノ北¹/₂西約四鏈ノ地ニ假泊セリ。

瀨棚岬三十三半八尺巖嶽峯ノ北ノ西ノ四輪ノ岬ニ對シテ
 北等ノ巖嶽ハ冬季ハ必歸天ヲ平懸ク切ニマセシメハ波々々々ノ○軍艦丸
 ハ巖嶽峯ノ南ノ正輪半ニマシテ巖嶽ノ内輪ニ所スルヤ岡ノ○
 所スルノイテハ○巖嶽ノ北ノ東ノ巖嶽ニ對シテ○日本海
 氏至一二ノ尺マシテ○三本ノ水ノ日マ夏ノ小汽船ハ北ノ東ノ巖嶽ノ間ニ對
 巖嶽峯ノ北ノ東ノ東ノ二輪半ノ正輪半ノ輪ノ岬ニ三圖ノ巨岩ニ對シテ其高一〇〇尺
 岬ニ干出一尺ノ岬マシ
 巖嶽峯ノ北ノ西ノ西ノ一ノ輪ノ岬ニ木箱一尊ノ岬マシ又北ノ東ノ東ノ三ノ輪ノ
 岬マシ一大巖峯土ニ立ス
 市街中央突出ノ岬ノ西ノ二ノ輪ニ立シ巖嶽峯ノ南ノ北ノ高尺十二尺ニ
 輪ニ小汽船ノ宝珠巖マシ○北ノ東ノ東ノ一ノ輪ノ岬ニハ巨岩ノ岬マシ其景ヲ代シニマシ
 然レイテ北ノ東ノ東ノ一ノ輪ノ岬ノ北ノ東ノ東ノ一ノ輪ノ岬ニハ巨岩ノ岬マシ其景ヲ代シニマシ
 北ノ東ノ東ノ一ノ輪ノ岬ノ北ノ東ノ東ノ一ノ輪ノ岬ニハ巨岩ノ岬マシ其景ヲ代シニマシ

市街ハ馬場川ヲ狹テ布置シ人家二百七十戸長役場郵便電信局アリ
 馬場川ハ水質良好ニシテ飲料ニ適ス又二三十尺ノ蛇管ヲ用ユレハ直チニ端
 艇ニ汲取ルコトヲ得

海岸

瀨棚錨地ヨリ海岸ハ彎曲シテ南西ノ西ニ走ル約七哩ニシテミダレノ岬ニ至
 リ次テ南方ニ走ル約五哩半ニシテ太田岬ニ達ス
 瀨棚ヨリ南方約一哩半ノ間ハ四分三哩以内ニ近ツク可カラス何トナレハ此
 處距濱約半哩以内ニ水深一フ尋ヨリ淺キ點灘散在スレハナリ
 夏季ニ於テハ瀨棚地方ハ北風吹キ江差地方ハ南風吹キ之ト同時ニ於テミダ
 レ、チバナ及太田岬附近ハ無風ノコトアリ然レトモ此時距岸約十哩以外ニ
 於テハ風向一定ス但地風ハ其力强シ

太田岬一名帆越岬

南西ニ突出セル灰赤色ノ一高角ナリ絶壁峻嶮ニシテ至近水深シ

ニ土マレ其峠ハ谷嶺ニ據ル蟻ノ井ノ井ノ井ハ餅魚刺蒸ヤ主業イミ米糠裡茶ハ昔
 一視ニ兼マレテハ東嶺ハ淺懸茶嶺南嶺ハ青苗北嶺ハ小宇藤峠ヤハ樓視
 島内淺懸表石青苗又藥圃ノ四林マレ合シマレ二百八十口マレイ羅人寒ク
 視ニ盛キス然レイテ淺懸ハ大磯ニハ木萩キニ盛キモ更セマス
 論此ハ北至西ノ風ニハ青苗南風ニハ餅餅北西至南西ノ風ニハ淺懸ノ三
 ハ萩島山ニハ島ノ北嶺ニ向テ漸次少クシテマレ餅餅峠イセハ
 三四尺マレ其北東式ニ萩島山(高一〇二二〇尺)マレ皆樹木密生ス而シテ餅餅
 一ノ式一四尺ノ高キニ登ス之ヲ輻風山イ稱ス北山ノ北式ニ餅餅山(高一四
 ニ當ル)〇北島ハ南北十三野東西五野島嶼漸次ニ對峙シテ島ノ際中央ニ至
 太田峠ノ西南西ニ立シ其島ノ北嶺ヤ餅餅峠燈臺ハ餅餅ニハ五西ノ野ノ嶺
 奥風島
 鈴ニ手無山(高一〇二二〇尺)餅餅山(高一〇六二八尺)マレ樹木密生スレ
 北峠ノ北式ノ野ニマレ色ヤトハヤ峠イ曰ク同シク灘地ニハ島ノ面ニマレ皆

内地ノ輸入ヲ仰ク

稻穂岬

奥尻島ノ北端ニシテ一條ノ低角ナルモ岬端ヨリ内方約四鏈ノ處ニ高二三二
 呎ノ一小圓丘アルヲ以テ北西及南東ヨリ之ヲ望メハ頗顯著ナリ又岬端ニ近
 ク墓石ト稱スル巨岩(高七十一呎)屹立ス

稻穂岬燈臺

岬上ニ設ク〇鐵柱造六角形黑白横線〇第三等回轉白色〇明弧ハ北八八度東
 ヨリ北六度西迄ニシテ十五秒時毎ニ最大光輝ヲ發ス〇燈高ハ高潮面上二五
 〇呎晴天光達十八哩

礁脈

稻穂岬ヨリ北ノ東ニ東三鏈ノ地マテ礁脈斗出シ其外端ハ陡界ナリ而シテ礁
 脈中ニ數箇ノ露岩アリ視認スルヲ得ヘシト雖遠ク之ヲ避ケサルヘカラス
 島岸

島嶼

湖中ニ燈籠ノ露岩アリ。斯處ノ水ヲ引ヘシテ燈臺ノ之ヲ築クセシムヘカラス。餘蘇岬ニ北下東ノ東三輪ノ岬ヲテ蘇湖半出シ其外邊ハ狹界ナリ而シテ蘇

蘇湖

○知都天光燈十八照

ニ北六更西邊ニシテ十五條細井ニ最大火燈ヲ築ス。○燈高ハ高階面上一正岬土ニ建テ。○燈林燈六段。蘇湖○築三層回轉白石。○岬北八更東餘蘇岬燈臺

ノ墓石イ爾スハ巨岩高十一丈(湖立ス

知ノ一小圓丘マキヲ以テ北西又南東ニシテ之ヲ望ムハ醜麗著キ。又岬邊ニ並奥風高ク北邊ニシテ一新ノ舟食マキ岬邊ニ内式隊四輪ノ岬ニ高二三二

餘蘇岬

内風ノ鍾人マキ

東岸

稻穂岬ヨリ彌右衛門岬ニ至ル本島東岸ハ長約十湮半幾ト直條ニシテ該岬ヨリ南方三湮ニアル東風泊村ノ沙濱ヲ除クノ外大概礫濱陡界ニシテ距濱一湮ノ處水深百尋ヨリ深ク偏東風ノ時ハ猛浪捲起シ船ヲ寄スルコトヲ得ス北岸

稻穂岬ヨリ西方磯谷埼ニ至ル本島北岸ハ長約六湮ニシテ距岸一鏈乃至二鏈ノ間ハ多岩ナルヲ以テ近寄ルヘカラス。○磯谷埼ヨリ北々西四鏈ノ處マテ岩脈斗出シ中ニ數點ノ露岩アリ其最外岩ハ高十三呎

西岸

磯谷埼ヨリ南方八湮半群來岬ニ至ル本島西岸ハ亂形ニシテ多岩ナリ群來岬ノ北方二湮四鏈距岸二鏈半ノ地ニ一圓錐嶼アリムイ島ト曰フ高二一三呎ニシテ南北ヨリ望ムトキハ顯著ナリ

群來岬トムイ島ノ中間距岸三鏈ト三鏈半トノ地ニ各點礁アリ高潮面上四呎

籍來岬イムト島ノ中間強嶽三輪イ三輪半イノ岬ニ谷深瀬マレ高階面土四尺
ニテ南北イリ望ムイキハ懸著セリ

ノ北式二野四輪強嶽二輪半ノ岬ニ一圓嶽トマレト島イ曰ク高二一三尺ニ
懸谷嶽イリ南式八野半籍來岬ニ至ル本島西嶽ハ嶺深ニシテ冬岩ナリ籍來岬
西嶽

淵平出々中ニ燈標ノ露岩マレ其最長岩ハ高十三尺

ノ間ハ冬岩ナリマレ以テ夜寄ムヘバマレ○懸谷嶽イリ北々西四輪ノ嶽マレ岩
嶽懸岬イリ西式懸谷嶽ニ至ル本島北嶽ハ長峰六野ニシテ強嶽一輪ハ至二輪
北嶽

ノ嶽木葉百尋イリ新ノ嶽東風ノ初ハ益居嶽マレ備マ寄ムハロイマ寄ム
ノ南式三野ニマレ東風ノ林ノ嶽マレ嶽ノ依大嶽嶽嶽嶽界ニシテ強嶽一野
嶽懸岬イリ懸谷嶽門岬ニ至ル本島東嶽ハ長峰十野半嶽イ直嶽ニシテ懸岬イ
東嶽

及三呎ヲ拔ク○群來岬附近ハ距岸四鏈ノ間甚多岩ニシテ其正西六鏈半ノ地
ニトゞ島ト稱スル孤岩アリ高二十六呎其周圍水深シ

青苗岬

奥尻島ノ南端ヲ成セル低岬ニシテ約一湮南方ニ斗出シ礁脈之ヲ圍繞ス其岬
端ヨリ南方ハ約四鏈ノ間殆ト洗岩斗出シ夫ヨリ尙六鏈ノ間淺水ニシテ其最
外端ニ水深二尋ノ點灘アリ

青苗灣

青苗岬ノ東側ニ青苗村アリ其北東一湮七鏈ニアル初松前トノ間ハ島岸北西
ニ彎入シテ沙濱ノ一淺灣ヲナシ偏西風ノ時ノ好錨地トナル○該灣ハ南西ヨ
リ西ヲ經テ北ニ至ル間ノ風ヲ遮障ス○偏東風アル時ハ強濤灣内ニ滾入スル
ヲ以テ此時ニハ船決シテ灣内ニ留マルヘカラス

軍艦武藏ハ青苗村ノ南端ニ突起セル小山ノ低肩ヲ約南西ニ望ミ水深八尋ノ
所ニ屢々投錨セリ此所底質沙ナルモ錨搔キ悪シカラス

汎ニ風對敵ナリ北汎風會セテハチ敵船ヲ悪シクセマス
 軍艦短礁ハ青苗林ノ南嶺ニ突張リテ小山ノ頂ヲ降南西ニ望シ水彩八尋ノ
 モ以テ北汎ニハ礁共ニモ艦内ニ留マシムヘクマス
 西ニ至ルモ北ニ至ル間ノ風ヲ懸刺ス○偏東風マシテ北ハ懸艦内ニ突入スハ
 二響人ニモ必ズ一響艦モセシ偏西風ノ如ク我艦此イセハ○懸艦ハ南西ニ
 青苗岬ノ東側ニ青苗林マシ其北東一響ノ輪ニマシ時對前イノ間ハ高嶺北西
 青苗嶺
 我艦ニ水彩三響ノ懸艦マシ
 識ニ南式ハ四輪ノ間谷イ我艦ト出シ夫ニ尙六輪ノ間對水ニシテ其最
 奥ノ島ノ南嶺モ如クハ岬ニシテ南式ハ出シ懸洲ニモ圍懸ス其岬
 青苗岬
 ニイノ高イ懸スハ岬マシ高二十六呎其周圍水彩ニシテ
 或三呎モ對シ○懸來岬側ニハ強嶺四輪ノ間甚多岩ニシテ其五西六輪半ノ岬

灣首ニアル青苗川ハ常ニ淡水流出シ夏期村内ノ水涸ル、トキハ居民皆此水
 ナ飲料トス

室津島

前記青苗岬南ノ二尋點灘ノ南方一湮二鏈即チ青苗岬ヨリ二湮二鏈ノ處ニア
 ル一簇岩ナリ○此簇岩ハ黒岩ノ數大塊ヨリ成ル其北西ニ位スルヲ森磯島ト
 曰ヒ最高ニシテ高二十六呎○該最高岩ヨリ東方ヘ八鏈半、西方ヘ四鏈、南方
 ヘ三鏈險惡地擴延ス故ニ船舶ハ遠ク之ヲ避ケサルヘカラス○該簇岩ト青苗
 岬南ノ二尋點灘トノ間ハ濶約一湮ニシテ八尋乃至十尋ノ水深アリト雖海底
 險惡ナルヲ以テ船舶ノ通過スヘキ所ニ非ラス
 諸錨地

北至西ノ風ニ在テハ青苗ヲ以テ島中第一ノ錨地トス
 函館小樽間ヲ航スル船舶ノ北乃至北西風ノ強吹ニ遇フ時ハ東岸釣懸ニ避泊
 スルモノ多シ然レトモ同所ハ水深ク岸ニ接スルニ非ラサレハ投錨シ能ハサ

スルハテノ途ニ然レドモ同視ハ本流ノ東ニ對スルニ非ラセシメハ對流ノ浦ハセ
函館小樽間ヲ流スルハ流ノ北西風ノ強クニ強クハ東岸ノ懸ニ懸ル
北西風ノ風ニ亦テハ青苗ヲ以テ島中第一ノ強流トス

精論此

劍懸ヤムキ以テ強流ノ強盛スヘキ視ニ非ラズ
岫南ノ二層標識ノ間ハ階級一階ニシテ八尋乃至十尋ノ水深マレドモ強流
ハ三層劍懸此處ニ始メ強流ハ強クシテヤムキヘテマズ○懸懸岩イ青苗
曰ク最高ニシテ高二十六丈○最高岩ト東式ヘ八層半西式ヘ四層南式
ハ一懸岩ヤレ○此懸岩ハ黒岩ノ燂大魁ト云ハ其北西ニ於テハ森懸島イ
前浦青苗岫南ノ二層標識ノ南式一階ニ強流キ青苗岫ト二階ニ強流ノ強ニマ
室事島

ヤ槍標トス

嶺首ニマシ青苗川ハ常ニ熱水露出シ夏候林内ノ水階ハノイキハ風呂岩此水

ルヲ以テ大船ニ便ナラス

上記ノ二錨地ハ偏東、偏南ノ風アル時ハ猛浪アルヲ以テ船決シテ留マルヘ
カラス

偏南風ノ時ハ島ノ北岸即チ稻穂岬燈臺ヲ東ノ北^{3/4}北ニ望ミ距離約九鏈ノ地
水深九尋乃至十尋ノ地ニ錨地ヲ得ヘシ軍艦武藏ハ屢、此ニ投錨セリ
海底電線

釣懸村ヨリ奥尻海峽ヲ横切り久遠灣ヘ海底電線ヲ通ス
潮

青苗灣ニ於テハ朔望高潮三時五十四分○大潮升一^{1/4}呎、小潮升四分三呎
奥尻海峽

奥尻島東岸ト太田岬トノ間ニアリ○該海峽ハ最モ狹キ處約九湮半ニシテ水
深ハ中央ニ於テ三百尋ヨリ深シ

此海峽ノ狹部ニ於テハ海流ハ其方向甚不規則ナレトモ其速度偏北流ハ一節

此岬ノ飛船ニ就テハ岬嶺ハ其方向甚不駄限ヤノイテ其表奥諸北嶺ハ一澄
新ハ中央ニ就テ三百尋ニ至ル

奥尻島東嶺ノ太田岬ノ間ニマレ○新岬ハ景ヲ映テ岬嶺ノ野半ニシテ木
奥尻岬

青苗嶺ニ就テハ岬嶺高嶺三却正十四分○大階代一ノ知小階代四分三知
階

淺懸林ニハ奥尻岬ヲ對シテ入嶺嶺ノ新岬嶺ヲ通ス
新岬嶺

水新式嶺ノ至十尋ノ此ニ論此ヤ嶺ノ軍艦岬嶺ノ風此ニ對論ナリ
南風ノ潮ハ高ノ北嶺岬ノ登臺ヲ東ノ北ハ北ニ望シ岬嶺ノ大嶺ノ此
式ニス

上嶺ノ二論此ハ論東嶺南ノ風マレ潮ハ益取マレマレ以テ備夾ニテ留マレハ
ムモ以テ大嶺ニ對マレス

半乃至半節、偏南流ノ部分ハ半節乃至四分一節ナルヲ驗セリ但夏期ノ經驗
ニ因ル

久遠灣

太田岬ノ南東約三哩ニアル小歌岬ト其南東方約三哩半ニアルヨリキ岬トノ
間ニアル開灣ニシテ灣口南西ニ面ス○灣内ニ稻穂岬横澗岬等ノ小角アリテ
該灣ヲ數區ニ分ツ其ヨリキ岬ト横澗岬トノ間ハ少シク北東ニ彎入シ其灣口
水深七八尋乃至十尋沙底ノ處ハ風向ニヨリ大船ノ寄泊ニ適スヘシ
久遠村ノ前面即チ小歌岬ト稻穂岬トノ間水深二三尋ノ處チ小汽船ノ寄泊地
トス○軍艦武藏ハ此地水深九尋ノ處ニ投錨セリ

奥尻海峽ヲ通航スル船舶ニシテ強北風ニ遭遇スル時ハ久遠ニ避泊スルモノ
アリ

久遠ヨリ奥尻ノ釣懸村ニ海底電線ヲ通ス
此地戸長役場、郵便電信局アリ○海産物ヲ除クノ外他ノ供給品ナシ

此岬ヨリ對岸ニ海峽有リ○此峯岬ヲ斜ニクハ峯ハ其品ヲ
入峯トシ奥ノ險懸林ニ巖窟有リ

奥ノ巖岬ヲ巖岬トシ其岬ニ巖窟有リハ其岬ハ入峯ニ巖窟有リ
イヌ○軍艦先頭ハ此岬木舟ヲ擧ク其岬ニ對峙ナリ

入峯林ノ前面限ヤ小岬岬トシ其岬ノ間木舟二三擧ク其岬モ小岬岬ノ峯岬
木舟ト八擧氏至十擧氏ノ岬ハ風向ニ依リ大岬ノ峯岬ニ巖窟有リ

巖岬モ巖窟ニ依リ其岬ノ對峙岬ノ間ハ少シク北東ニ巖入リ其岬口
間ニテハ開巖ニシテ巖口南西ニ面ス○巖内ニ巖岬對峙岬善ク小岬トシテ
太田岬ノ南東ニ巖三點ニテハ小岬岬トシ其南東ニ巖三點半ニテハ岬トシテ

入峯岬
ニ因リ
半氏至半道巖南嶺ノ峯ハ半道氏至四分一道ヲハ岬トシ其岬ナリ其岬ハ夏候ノ巖岬

ポンモシリ岬一名關内岬

久遠灣ノ南角ヨリキ岬ヨリポンモシリ岬ニ至ル南々東約四哩ノ海岸ハ殆ト
直條ニシテ所々ニ暗黒色ノ險崖(高約一〇〇呎)高起シ且沿岸岩石多シト雖

ポンモシリ岬附近ヲ除ク外危險ナシ

ポンモシリ岬ハ太田岬ノ南東ニ南十哩ニ於テ黒色ノ岩石ヨリ成レル低角ニ
シテ其附近約二鏈ノ間岩礁多ク少ナクトモ距離三鏈以上ノ處ヲ航セサルヘ
カラス○此岬ト關内川ノ間ニ於テ盤岩ノ間ニ三四十石積以下ノ日本形船常
ニ繫泊ス然レトモ岩隙ヲ縫航シテ入ルモノユヘ頗危険ナリ○此岬ノ北東方
ニ白別岳(高四〇五六呎)白水岳(高三七三二呎)冷水岳(高二八六〇呎)等ノ
高山相連リ頗顯著ナリ

熊石

ポンモシリ岬ノ東ニ南約二哩半ニアリ此間海岸一帶殆ト人家相連ル熊石ノ
首村ハ字中歌ニアリ時トシテ函館或ハ江差ヨリ小汽船ノ便アリ○戸長役場

此岬ノ南々東一懸ニマハ森劍岬間或ハ強嶽一懸ノ間ハ一帯ノ盤岩ニシテ
此岬ノ南々東一懸ニ三懸半強嶽三懸ノ間ニ水滌半懸ノ部懸マ
ノ北々八懸強嶽一懸ノ間ニ高峯一懸スハ高正十四尺ノ圓頂峯マ
臨著マハ岬半出岬ニシテ岬ノ縁ハ珠色ヲ帯サスハ平骨マハ則嶽峯マ
○嶽岬

論岬

ニ致審マハマモス

中間ニマハ谷水川流ノ間ハ武劍マハ其以南ハ釜峯マハ以テ強嶽三懸以内
ニ夫トシテ論岬ニ至ハ南東式隊正野ノ懸間ノ嶽峯ハ嶽ヲ必強嶽ニシテ其隊
至ハ東式隊四野間ノ嶽峯ハ強嶽一ニ懸ノ間強嶽部峯嶺亦ハ強嶽マハ致審ヲ獲
其間南嶽ニ五峯又土岡マハ一懸此マハ○其内ホノホシリ岬ト見市川ニ
ホノホシリ岬ト其南式隊二十一野ニマハ志嶽千岬トノ間ハ一大嶽峯マハ丸シ

嶽峯

海動雲計風マハ

其北側ニ窓岩ト稱スル暗黒色ノ柱形岩アリ其高六十九呎

館岬

館岬ノ南々東四湮ニアリ土俗之ヲ乙部^{オトベ}館ト稱ス○此岬ハ高二〇〇呎乃至
三三〇呎ノ白色斷崖ニシテ海上ヨリ望メハ最モ顯著ナリ○此近傍ハ山丘低
クシテ夏期綠草茂生ス

乙部鼻

館岬ノ南方一湮ニアル斷崖ニシテ其前面三鏈ノ間礁脈擴延ス○此鼻ト館
岬トノ間ハ海岸東方ニ彎曲シ其南東側ニ乙部村アリ戸數四百七十ニシテ戸
長役場及郵便電信局アリ

乙部鼻ヨリ南方江差ニ至ル約五湮半ノ海岸ハ殆ト直條ニシテ此鼻ノ南方二
湮三鏈ニ厚澤部川アリ江差ヨリ海岸ヲ經テ該川ニ沿ヒ函館ニ通スル道路ア
リ○又南方約四湮ノ地ニアル泊村ノ北西方一湮ノ間ハ距岸三鏈半ノ間ハ岩
石多キヲ以テ近寄ルヘカラス○該村ノ西方距岸五鏈ノ地ニ由島^{ヨシ}ト稱スル高

て北嶽く南東側へ露く此へ善供ニ動セハテ北東側へ礫キ盤岩ニシテ木野く
華芬嶽ハ小丘く南嶽ニシテ市街く中央ニ突出シ人衆其土不ニ得既ニ而シ
土對視

彩子嶽ハ至北嶽く露キ亦風對ニシテ論此キ併ヘシ

嶽キ賦スキ以テ朝ニ迎ヘ去論く廻テリイ云テ○調島く南嶽キ北嶽ニ望シ木
ノモ以テ餘史キ止マハヘ成マヌ○又南風颯烈く朝ハ北嶽嶽く階ハ北向く顯
論嶽キ善シ然レイテ北ニ西キ盤テ南々西ニ至ハ間く風マハイキハ懸嶽賦
嶽ニ北東大木彩六嶽ハ至八嶽く露ニ成テ論此キ併ヘシ北嶽風野ニシテ
ニシテ嶽イ懸懸シ其木彩四分一嶽ハ至四分三嶽キ○輝大マハ嶽ハ調島北
シ夏季中ハ買嶽く并來頭懸業キ○北嶽嶽く焚燔ハ露味ニ輪半ニシテ岩盤
對嶽イ其前面キハ調島イク間ニ風ニ廻レハ味嶽く夜嶽嶽ニシテ南北ニ開巖

瓦蓋論嶽 新圖形四四嶽キ露

大廻く平山嶽マシ

且水中マテ人家築出セルヲ以テ上陸ニ便ナラス然レトモ其偏東部ニ一ノ荷
揚場アリ此處ニ着舟スルヲ得

江差市ハ人口二萬千二百餘支廳、郵便電信局、病院等アリ

供給品

日用品ハ大抵辨シ得ヘシ

飲料水ハ市街ノ北東ニアル小河ヨリ得ヘキモ河口水淺ク端舟ヲ入レ難シ此
他ニ全村ノ飲料ニ供シ居ル井水アリ良質ニシテ其量亦多シト雖運搬不便ノ
爲メ毎噸二圓半ヲ要ス

目標

市ノ東方約五哩内外ノ處ニ元山(高一、七二三呎)笹山(高二、〇一七呎)八幡岳
(高二、二二七呎)等ノ高山アリ就中笹山(東西ニ峯アリ土俗ニ子山ト稱ス)ハ
西チ除ク外各方ヨリ認メ得ヘク實ニ江差ヲ知ルノ好目標タリ
交通

交通

西ニ細ク伏谷式ニ臨ミ掛ヘク實ニ瓦釜ヲ映シテ其目懸キリ
(高二二二一十尺)等ク高山マレ線中釜山(東西二峯マレ土谷二千山イ爾ス)ハ
市ノ東ニ條正野内代ノ巔ニ元山(高一十一三三尺)釜山(高二〇一十尺)八割岳
目懸

爲ク其脚ニ二圓半キ要ス

此ニ全林ノ燐燐ニ掛シ鼠ハ共木マレ其實ニシテ其量亦多シイ雖野燐不動ノ
燐燐木ハ市街ノ北東ニマレ小阪ニ掛ヘテ河口木對シ識世モ人ノ獲シ地
日用品ハ大抵無シ掛ヘシ

其餘品

瓦釜市ハ人口ニ萬千ニ百箱支鹽灘野雷掛風録詞等マレ
掛掛マレ此巔ニ眷世スハモ掛
且水中マレ人案案出サハモ以テ土割ニ動セマレ然レイテ其歸東港ニ一ノ荷

福山及函館へ定期小汽船ノ交通アリ又壽都、岩内、小樽及越佐地方ニ臨時汽
船ノ便アリ○函館及熊石ニ一日一回馬車ノ往復アリ

天候

七、八、十ノ三ヶ月ハ晴天多ク六月九月ハ降雨多シ而シテ降雨ニハ東及南ノ
風ヲ伴ヒ北西風吹クトキハ晴ル、ヲ通例トス

鷗島

此島ハ周圍皆岩岸ニシテ其約中央ノ處殊ニ低頸地ナルヲ以テ殆ト二島ノ觀
ヲ呈ス

鷗島燈臺

島上ニ設ク○木造四角形白塗○不動白色○明弧ハ北一二度西ヨリ南七八度
西ニ至ル○燈高ハ高潮面上○四呎晴天光達九哩

暴風標

島ノ中央ト津花埼ノ丘上トノ兩處ニ暴風標アリ

島く中央イ華芬嶺く丑土イノ兩嶺ニ暴風懸マレ
暴風懸

西ニ至ル〇嶺高ハ高嶺南土一〇四咫却天光登火野

島土ニ嶺〇木叢四角深白塗〇不燻白塗〇即此ハ北一二更西〇南十八更

綱島登臺

セ呈ス

北島ハ周圍皆岩阜ニシテ其際中央ノ嶺終ニ亦巖此マハモ以テ谷イニ島ノ

綱島

風モ幹ヨ北西風吹クイキハ却ルマモ巖岡イヌ

十八十ノ三マ尺ハ却天走ク六尺尺尺ハ斜雨走ク而シテ斜雨ニハ東又南ノ

天刻

嶺ノ更マレ〇函館又嶺下ニ一日一回馬車ノ并走マレ

嶺山又函館ノ宝珠小舟嶺ノ交駁マレ又壽精岩内ノ小舟又越式此式ニ綱島六

上ノ國澳

鷗島ノ南端ノ南方三湮半ニアル一小澳ナリ澳口北方ニ面シ西至北ノ風ヲ除

キ其他ノ風ニハ艦艇ノ避泊ニ適スト雖風向西ヨリ南ニ偏スルトキハ強キ

山風來ルヲ以テ好マシキ錨地ニ非ラス〇小船ハ該澳ノ南隅ニアル天野川ト

大淵ノ鼻トノ中間距岸一鏈ノ地ニ錨地ヲ得ヘク大船ハ該川口ヨリ北々西八

鏈水深九尋沙底ノ處ニ錨地ヲ得ヘシ

此地少量ノ食品及淡水ヲ得ヘシ

江差ヨリ上ノ國ニ至ル間ノ海岸ハ沙濱ニシテ近傍高山ナク殆ト平野ナリ

志根子岬

上ノ國澳ノ西方ノ海岸端ニアル低角ニシテ角上ハ雜草滿チ下部ハ黑色ノ岩

石ヨリ成ル

福山灣

海圖第一〇號ヲ見ヨ

折戸埼ノ辨天島ト白神岬トノ間ヨリ成リタル露開灣ニシテ偏南風ノ流行期

此日故く幾天島イ白輪軸イノ間ニハ風トモハ雲閉鬱ニシテ南風ノ氣行琪

蘇山嶽 蘇山嶽一〇歳ノ長也

不ニハ風ハ

土國東ノ西式ノ嶺氣識ニマハ山食ニシテ武士ハ雜草藪ヤ不踏ハ黒色ノ岩
志辨子岫

瓦蓋ニハ土國ニ至ル間ノ嶺氣ハ必齧ニシテ後野高山ヤ々谷イ平裡ヤ
此此少量ノ食品ハ薪木ヲ掛ヘシ

輪木薪式薪ハ風ノ強ニ論此ヲ掛ヘシ

大間ノ裏イノ中間環氣一輪ノ此ニ論此ヲ掛ヘシ大嶽ハ蘇川口ニハ北々西入

山風來ルキ以テ致ルニテ論此ニ非ラス○小嶽ハ蘇嶽ノ南端ニマハ天裡川イ

キ其嶽ノ風ニハ蘇嶽ノ嶺氣ニ齧スイ蘇風向西ニ南ニ論スハイキハ蘇キ

嶽島ノ南端ノ南式ニ野半ニマハ一小嶽ヤ々嶽口北式ニ面ニ西至北ノ風ヲ斜

土國嶽

ニ於テハ長濤狂浪滾入シ片時モ錨泊ニ堪エス且海底凹凸ニシテ五尋及七尋
ヨリ俄然十三尋ニ變スル所アルヲ以テ決シテ好マシキ錨地ニ非ラス

大船ノ錨地トシテ比較的安全ノ部分ハ福山城櫓ヲ北一度西ニ辨天島燈臺ヲ

北八四度西ニ望ミ水深約十四尋ノ處ニシテ其附近約一鏈ノ間ハ底質殼沙錨

搔キ稍好キカ如シト雖概テ廣大ナル岩盤ヲ覆フニ過キサルヲ以テ高浪起ル

トキハ錨搔キノ安全ヲ保ス可カラス○海圖上指定ノ錨地ハ不便ニシテ且偏

西風ヲ避クルニ足ラサルカ故ニ現今用フルモノ稀ナリ○上記ノ二錨地ノ外

ハ不平ノ岩底ナルヲ以テ投錨スヘカラス

小船ノ錨地トシテハ市濱ノ岩礁間(方言間)ヨリ成レル小澳アリ其主ナルモ

ノハ大松前間及大間ト稱シ前者ハ市街ノ前面ニ當リ最モ廣キヲ以テ岸航汽

船ハ此ニ錨泊ス乃チ岸上數多ノ繫柱アリテ各船ハ船首ヲ風上ニ向ケ風下ノ

繫柱ニ船尾ヲ繫留スルヲ常トス○此錨地ハ東ヨリ北及北西マテノ風ニ適ス

ルモ其他ノ風來ルトキハ白神岬ノ北方ナル吉岡ニ避クルヲ可トス

ハ其於ノ風來ハイキハ白輪船ノ北式ヤハ吉岡ニ鑑ムルヤ可イヌ
 築林ニ備置キ樂留スルヤ常イヌ○此論此ハ東ヨリ北ハ北西マモノ風ニ鑑ス
 備ハ此ニ論此ノハキキ土煙走ノ築林マリテ各備ハ備首モ風土ニ向ケ風下ノ
 ノハ大空前間ハ大間イ爾ノ前空ハ市街ノ前間ニ當リ景ヲ觀キモ以テ景景
 小備ノ論此イニモハ市街ノ前間(式言間)ヨリ北ノハ小備マリ其主ヤハ
 ハ不平ノ岩流ヤハ以テ對論スヘキヌ
 西風モ鑑ムルニ以テヤハ姑ニ與今用テハヤノ解ナリ○土語ノ二論此ノ依
 イキハ論此キク安全ヤ對ス可キヌ○此圖土語宜ノ論此ハ不則ニシテ且爾
 辭ヲ詳説キカ吹シイ爾辭ヲ觀大セハ岩盤モ賢クニ鑑キヤハ以テ高野踏ハ
 北ハ四更西ニ望シ水際際十四幕ノ觀ニシテ其棚波際一輪ノ間ハ浪浪波ハ
 大備ノ論此イニモ此陣内安全ノ階位ハ福山城辭ヤ北一更西ニ轉天島嶽臺マ
 Eノ船然十三幕ニ變スル視テハキ以テ此ニモ此ヲ論此ニ非ラス
 ニ然モハ是霧玉系系人ノ此詞ヲ論此ニ非エヌ且霧風凹凸ニシテ正幕ハ十幕

福山市ハ舊松前ノ城下ニシテ松前市廳、郵便電信局等アリ人口九千六百餘
 漁業ヲ主トシ商之ニ次ク○毎日函館ト汽船ノ交通アリ
 供給品

淡水ハ概テ飲料ニ適ス然レトモ水船ノ設ナシ○食品モ多少辨シ得ヘシ
 北東諸島(千島)

總記

北東諸島ノ航海期ハ通常五月中旬ヨリ十月中旬マテトス但外國漁獵船ハ三
 月下旬乃至四月初旬ヨリ北航ヲ始メ九、十月頃ニ歸航スト云フ

霧

霧ハ北東諸島ノ航海ニ於テ一般ニ夏期ニ於ケル唯一ノ障碍物ニシテ其最モ
 長時間ヲ持續スル時期及該諸島ノ南東、北西ノ兩側何レカ最モ多キカ未タ
 數多ノ經驗ヲ經サルカ故ニ説明ヲ缺クト雖明治二十六年以降軍艦武藏ノ屢
 實驗スル所ニ據レハ五月ハ最モ霧ナキ時期ナルカ如シ又一般ニ南東側ノモ

百七十九
頁二行至
十二行

百七十八
頁五、六
行

十二行
百十八至

實録スハ沢ニ懸ルハ正民ハ景ヲ霧ヲキ朝暎ナハ成ル又一強ニ南東側ノマ
燻タシ懸録ヲ懸セハ成ニ信田ヲ燻ケイ編田廿二十六半以制軍艦海霧ノ風
昇初間キ封懸スハ朝暎ハ霧島ノ南東北西ノ兩側向ル成景ヲ燻キ成未
霧ハ北東諸島ノ霧島ニ成キ一強ニ夏強ニ成キハ朝一ノ朝暎ニ成キ其景ヲ
霧

且下位ハ至四月降付ヨリ北強ヲ故ノ成十月即ニ霧島スイニ成

十五行
百十八

北東諸島ノ霧島ニ成キ正民中位ヨリ十月中位マキイニ成イ國艦懸録ハ三
懸島

北東諸島(干島)

將水ハ燻キ燻キニ成ス然レイキ水燻ケ燻キニ○食品ヲ燻キ燻キニ燻ヘ
燻品

燻業キ主イニ商之ニ成ル○毎日函館イ燻燻ノ交成マ

函山市ハ書成前ノ燻キニ成ルモ成前市燻(准更書)鼠等マ人口成千六百餘

ノハ濃密長時間ヲ持續シ北西岸ノモノハ概シテ稀薄ニシテ長時間ヲ持續セ
サルカ如シ

北東諸島ノ海面ニ於テハ屢濃密ナル瓦斯ノ暗淡色ヲ帶ヒテ水平線ニ隆起
シ遠山ト誤認セシムルコトアリ

要スルニ五月ハ餘寒強烈ナルモ霧少ナク且海流ノ影響ヲ受クルコトモ亦甚
少ナキカ故ニ北東諸島ノ航海ニハ好時期ナルカ如シ

唯以下全文ヲ削除ス

水及薪木

淡水ハ群島到ル處殆ト之ナキハナシ其水質ハ盡ク良好ナリトハ信シ難キモ
無論罐水ニハ適スヘク唯取方ニ難易アルヘキノミ○薪木ハ到ル處流木ノ漂
著セルモノ海岸ニ山積スルヲ以テ其鹽分消散セルモノハ汽艇ニアリテハ石
炭ノ補助ニ充ツルニ足ランカ

セ、キ灣ノ四字ヲ削除ス

百八十二
頁七行

ノ中ノ響ノ四字ヲ附録ス
巽ノ蘇世ニ衣々ハニ只モシカ

著シハチノ嶺峯ニ山麓スハモ以テ其體分前錯ナリトクハ岩塊ニマリテハ不
無論動水ニハ巖スヘク御車式ニ難見クハヘキクシ○藤木ハ陸ハ蕨木ノ類
將木ハ群島陸ハ蕨木イ之ヲキハセシ其木質ハ盡ク夏秋ナリイハ節ノ難キヲ
水ハ藤木

同十行ノ

一頁百八十一

御以テ全文ヲ附録ス
少キチカ姑ニ北東精島ノ嶺峯ニハ秋初候ナリト云
要スハニ正民ハ嶺峯距離ナリト露少キク且嶺峯ノ遠響ヲ受クハヒイチ衣甚
ノ嶺山イ馬蹄ナリト云ハヒイマリ
北東精島ノ嶺面ニ於テハ風ノ響密ナリト云ハヒイマリノ響密ナリト云ハヒイマリ
ヤハヒイマリ
ノ嶺山イ馬蹄ナリト云ハヒイマリノ響密ナリト云ハヒイマリノ響密ナリト云ハヒイマリ

頁百八十三
次一行ノ

ル、イ岬ヨリ南方約六湮ニアル岬端ハ赭色ノ高崖ニシテ甚顯著ナリ而シテ
此岬端ヨリ四五湮ノ間ハ大彎岸ヲ成シ其南端ニ一淺澳アリオンチトト曰フ
其奥處ニ唯二棟ノ納屋アリ軍艦武藏ハ其前面距岸約一湮水深十尋(沙底)ノ
處ニ投錨セリ此錨地ハ北至西ノ方向ニ暴露スト雖國後北西岸ニ在テハ夏季
ノ假泊地ニ適スルモノナルヘシ○此地瀑布溪流多シ

頁百八十三
次九行ノ

安渡移矢岬燈臺

岬端ニ設置ス○鐵造六角形白塗○第二等回轉白光、毎三十秒ニ一光輝ヲ發
ス○明弧ハ南七〇度東ヨリ北一八度東マテ二六八度間トス○燈高ハ海面上
二一七呎半、晴天光達二十一湮

霧笛

霧雪或ハ溟濛ノ天ニハ一分時毎ニ吹鳴ス其吹鳴時間ハ五秒ニシテ靜穩ノ天
候ニハ其音響約四湮ニ達ス

該燈臺及霧笛ハ毎年二、三ノ兩月ハ休止ス

精微臺又霧苗ハ每平二三ノ兩氏ハ村土ス

刻ニハ其音響隊四野ニ登ス

霧苗海ハ其霧ノ天ニハ一合却母ニ刻刻ハ其刻刻却間ハ正峰ニシテ霧霧ノ天

霧苗

二一ノ半却天光登二十一野

ス○即即ハ南ノ東東ニ北一八東東マモ二六八東間イヌ○登高ハ其面土

脚識ニ霧苗ス○霧苗六尺深白登○策ニ善回轉白光登三十峰ニ一光職ヤ登

定鄭逐天脚登臺

く野出此ニ霧スハモノヤハへ○此此霧亦霧登

嵐ニ對論ナリ此論此ハ北至西ノ式向ニ暴霧スイ難國對北西嵐ニ五マハ夏季

其奥嵐ニ却二棘ノ内星マ軍艦短霧ハ其前面強嵐隊一野水霧十暴(此嵐ノ)

此脚識ニ四正野ノ間ハ大霧嵐モ如シ其南識ニ一對野マレトモイイ曰ク

ハノ脚識ニ南ノ隊六野ニマ脚識ハ霧苗ノ高嵐ニシテ甚霧著マレ而シテ

太
百八十三

磐城角

百八十五
次
頁四行ノ

五洋丸船長ノ報告ニ據レハ磐城角ヨリ西ニ北二哩距濱約一哩ノ處ニ破浪礁
アリ長約一鏈ニシテ其東端ハ約三呎干出ス而シテ四周ノ水深ハ約二尋半ナ
ルヲ驗セリト云フ

磐城角ト古冠灣トノ間即チ北緯四四度七分東經一四六度四分五〇秒ノ地ニ
於テ汽船玄武丸ハ一暗礁ニ觸レタリ其礁上水深約一尋ナリト云フ(水路告
示第一〇六八號)

百八十五
頁五行

セ、キ灣ヲ古冠灣ト改メ次ニ左記ヲ加フ
羅白岳ノ東麓ト其東方約二哩ニアル平坦無樹ノ陸舌トノ間ニアリ而シテ其
東側ニ古冠、オキノコタン西側ニセ、キノ部落アリ

セ、キ錨地

百八十六
頁四行

古冠灣及以下三行ヲ左ノ如ク改正ス
古冠錨地ハ前記陸舌ノ南西側ニアリテ岩礁少ナク水深適宜ナルヲ以テセ、

古塚論此へ前諸割舌く南西側ニマレマ岩嶽少々々水滸蘇宜ヤムモ以テヤ、

古塚舊式以下三百モ式く成く成五々

東側ニ古塚トキくエタノ西側ニチノキく精慕マレ

羅日岳く東麓イ其東大峰ニ野ニマレ平地無樹く割舌イく間ニマレ面ニマレ其

示策一〇六八號

然マ内嶽支嶽大ハ一部嶽ニ離レタリ其嶽土水滸蘇一ニ暮ヤリイ云々(水滸書

嶽嶽食イ古塚嶽イく間暇ヤ北嶽四四更ト合東嶽一四六更四合正〇條く此ニ

ハモ嶽ヤリイ云々

マレ其嶽一嶽ニシテ其東嶽ハ嶽三則干出ク面ニマレ四圍く水滸ハ嶽ニ暮半マ

正嶽大嶽嶽く躰書ニ嶽ハ嶽嶽食イ(西ノ北ニ野嶽嶽嶽一野く嶽ニ嶽嶽嶽

キニ比スレハ稍安全ナリ故ニ船舶ハ多ク此ニ泊ス

古冠ハ十餘戸ノ漁村ニシテ井水ハ住民ノ飲料ニ欠乏ヲ告ケスト云フ

注意 三十二年二月大改正ノ海軍海圖第九三號ニ記セル古冠灣及セ、キ灣ノ位置

海底電線 此埼ノ東側ヨリ根室ノハツタラニ向セ海底電線ヲ通ス

泊灣

灣首ニ泊村アリ島中ノ主村ニシテ人口約千七百餘、郵便電信局アリ ○根室

ト一ヶ月三回乃至四回汽船ノ交通アリ 物産ハ魚類及硫黄ニシテ淡水ハ其質飲料ニ適シ且多量ナリト云フ

國後水道

海底電線 國後島白糖泊ト擇捉島丹根萌トノ間ニ水道ヲ横切り海底電線ノ沈設アリ

擇捉島

風八十日不雨ニ至半四日不雨ニ至ハ盛觀感ヤハ北西風多ク越其高ク
北西氣ニハ依リ驟無セリ云々

スハニ於テ十月至四月ノ間ハ風向北ニ偏シ且其勢少キキ季節ヤハキ以テ
ロイ途ニ北西氣ニ至テ留阻又内附等ク其勢少キハ平氣ニ由リ南東氣イ盛
向ク急ク南東氣ニリ刈送スハチクニ高キ峯嶺等ハ常ニ霧霧ニ付ヤハ
東氣ニハ驟驟密ヤレイテ北西氣ニハ甚稀少ヤリ凡ヤ北西氣ノ其勢ハ大抵風
其勢ハ風平氣イ盛ニハロイヤレイ其勢其量チ多キハ正月至十月ノ間ニシテ南
交點霧ノ日ニ共ヤレハ極景ニ於リテ其行スハロイ其勢其量
山嶺峯嶺等ノ位置多クハ五ニ成ヌ然レイテ北西氣ノ其勢其量
ノ風氣ヤチ斜割スヘキ安全ノ論此ハ一チヤレ且未キ其勢其量
東嶺ニチロ霧ヤレイ其勢其量ニシテ大體モ容ハノニ只ハチ向
内附留阻留阻ニシテ其勢其量ニシテ南東氣ニ單氣北
本島ハ南西北東ノ其勢其量ニ百十點調降ニ十點ハ至四點ニシテ其北西氣ニハ

四百
頁三
百八十八

四百
頁三
百八十八

テ航海甚困難ナリ其最強烈ナルハ十一月及十二月ニシテ一月以降ハ稍其勢
ヲ減ス夏季ハ風向一定セスト雖偏南ノ風多ク十月ノ初ヨリ此風強烈トナリ
急ニ北西ニ變スルコト多シト云フ

海流ハ頗強烈ナルモノアリ其方向ハ確測スル能ハサルモ大約冷流ナルヲ以
テ其北方ヨリ南方ニ流ル、チ知ル然レトモ其方向一定セサルモノ、如シ探
究極メテ肝要ナリ

結氷及流水ハ島ノ北西岸ニ多ク冬期ハ大約氷結シテ氷海トナル其氷結ハ地
方氷ニアラスシテ海流ノ爲メニ北方ヨリ流レ來ル氷塊港灣ニ入り或ハ海岸
ニ觸レテ相凝結シ漸次海面ニ延長シテ數哩ニ及ヒ厚丈餘ニ達ス南東岸ニ於
テハ結氷スルコト稀ニシテ間、風向ノ爲メニ流水海灣ニ入りテ氷結スルコ
トアルモ數日ヲ出スシテ溶解シ去ル而シテ氷塊ノ漂流シ來ルハ十二月下旬
ニ始マリ五月上旬ニ至レハ全ク其跡ヲ絶ツト云フ

降雪ハ十一月ニ始マリ翌年四月ニ至ル一月二月最モ多シ然レトモ流行風ノ

斜雲ハ十一月ニ故マリ翌年四月ニ至ハ一月二日最チ急シ然レイテ南風ノ
ニ故マリ正月十日ニ至レハ全ク其根ヲ斷ルイ云テ

イマレハ燻日ヤ出スニテ密積シ去リ而シテ米穀ノ熟シク來ルハ十二月十日
マハ米穀ノ熟シクニ至リテ間風向ノ急シクニ米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク

ニ斷レテ米穀ノ熟シクニ至リテ間風向ノ急シクニ米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク
式米ニマラスニテ密積ノ急シクニ北式ニ至リテ米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク

米穀ノ熟シクハ島ノ北西岸ニ至リテ大隊米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク
突進シテ米穀ノ熟シク

マ其北式ニ至リ南式ニ至リテ米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク
米穀ノ熟シクハ島ノ北西岸ニ至リテ大隊米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク

急ニ北西ニ變スハロイ急ニイ云テ
米穀ノ熟シクハ島ノ北西岸ニ至リテ大隊米穀ノ熟シク入リテ米穀ノ熟シク

爲メ吹キ去ラレ各地トモ山谷凹處ノ外ハ堆積スルコト少ナシ五月下旬ニ至
レハ全ク溶解シ去ル

氣候ハ五月六月ヲ以テ最好中和ノ節トシ寒暖計四〇度ヨリ六〇度ノ間ヲ升
降ス一月二月三月ハ最モ寒ク七月八月ハ最モ暑シ寒暖ハ年ニヨリ全シカラ

サルモ最低ハ華氏ノ零度ニ達シ最高ハ八十九度ニ升ル然レトモ此ノ如キハ
一年中數日ニ過キス夏期ニ於テハ殊ニ然リトス數年ノ實驗ニ徴スルモ近年

寒氣大ニ減却セルカ如シト云フ
降雨ハ周年頗稀ナリ六月ハ内地ニテ梅雨ノ節ナルモ本島ハ晴和ノ日多ク九

月ニ至テ氣候不順トナリ稍降雨多シト云フ
物産ハ海産ニ富ミ鱒、鮭ヲ主トシ其他鱒、鯉、鯽、昆布、布海苔等ナリ昆布ハ

多ク南東岸ニ産出ス
地味ハ豐腴ニシテ夏期ハ野菜類ノ耕作ニ適スレトモ皆漁業ニ忙ハシク耕作
ヲ專ニスル者ナシ野菜即チ大根、蕪菜、馬鈴薯、「キャベチ」ノ類ヲ栽培スル

全々水面下ニ好ス...

ニ英主ナル「ハストロー」...

響ノ南魚ナル具微...

岩...

中岡齋

岩...

岩...

岩...

岩...

岩...

春幸古代

東ノ所...

...

明治三十四年八月十三日印刷
明治三十四年八月十六日發行

(定價金拾九錢)

發行者 水路部

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地
株式會社秀英會支配人

印刷者 相川尙清

東京市麴町區有樂町一丁目
一番地

販賣所 日本郵船株式會社

水 /

湖 寶 佩

日本經濟學友會館

東京市神田區音樂町一丁目

明 佩 香

味 佩 齋

科友會博愛英會支那人
東京市京町區西條區第二十六丁目

發 行 香

木 齋 齋

即前三十四年八月十六日發行

即前三十四年八月十三日出版

(寶賈金餅式發)

